

## ○參照第三

本年一月東京地震ノ節大學院學生工學士塚本靖同野口孫市及囑託員山崎定信ノ三名ニ實地調査ノ件ヲ依頼候處各報告書差出候ニ付今般取纏ノ上別冊提出候也

明治廿八年九月

委員	曾 禰 達 藏
委員	中 村 達 太 郎
委員	工 學 博 士 片 山 東 熊
委員	工 學 博 士 辰 野 金 吾

震災豫防調査會長理學博士菊池大麓殿

本郷小石川牛込四ツ谷赤坂麻布六區震害報告

大學院學生工學士 塚 本 靖 述

工學博士辰野教授ノ委囑ニ依リ明治廿八年一月十九日午後十時五十七分東京ニ於テ起リシ地震カ建築物ニ及ボシタル結果ヲ研究シ爰ニ之ヲ報スルニ當リ一辭ノ豫メ陳シ置ク可キアリ  
去ル明治廿七年六月二十日ノ地震カ東京市内各種ノ建築物ニ與ヘタル被害ハ頗著大ナル者ニテ有リキ本年ノ被害ハ之ニ比

シテ大ニ鮮少ナリシヤノ感有リ然リ而シテ去今兩歲ニ於ケル震害結果ノ記念ニ就テハ不幸ニシテ確然タル分別ノ徴ス可キナク或ハ彼此相混淆シ其震害ガ果シテ今日ニ成リシヤ將タ去歲ノ遺物ナリシヤヲ分別スル能ハザルノ例少ナカラズ之レ蓋シ前後兩震ニ於ケル年月甚相遠カラザルニ職因スル所ニシテ前回被害ノ修繕全ク其効ヲ終ヘザリシ者多キニ起因セズンハ非ル也故ニ余ガ爰ニ調査研究シタル震况一斑ノ如キモ勉メテ這般震害ニ係レル者ヲ撰集スルノ意ニ出タリト雖昨前震々餘ノ遺物ヲ再録セシヤノ嫌亦全ク之レ無キヲ保セズ是蓋數ノ免レザル所ニシテ余ガ敢テ大方ノ寛恕ヲ仰ク所以ナリ  
余ガ研究ヲ委囑サレタル區域ハ東京市ノ西部一帯即本郷小石川牛込四谷赤坂麻布ノ六區ナリ今北方ヨリ順ヲ追フテ其震害ノ狀況ヲ列記センニ

本郷區

帝國大學、區役所郵便局中央會堂東竹町會堂春木座劇場等孰レモ被害ナシ第一高等學校ニテハ構内東北ノ教場東ニ面シテ南北ニ連レル壁上北ヨリ第三ノ窓牖上部櫛形迫持ノ左端ニ於テ煉瓦目地ニ從ヒ罅裂ヲ生ジタリ  
本郷勸業場車寄全ク壞倒セリ蓋シ煉瓦壁ト木材トノ連結充分ナラズ唯單ニ之ヲ指込ミタルノ結果ナルガ如シ

小石川區

小石川區ニ於ケル震災被害ハ柳町諏訪町最甚シ此二町ハ元田圃ナリシヲ以テ其地形良好ナラズ從テ此回震害殊ニ著シカリシ者ノ如シ其他戸崎町附近卑下ノ地ニモ亦被害少ナカラズ

區内土藏腰卷壁面等ノ破損セシ者柳町ニ三戸竹早町小日向水道町ニ各一戸アリ住家屋根ノ破損セシ者柳町ニ四戸新諏訪町ニ三戸戸崎町及久堅町ニ各一戸アリ春日町憲兵屯所ノ玄關ハ破損シ平岡工場内入口ノ土塀一間計破損ス

念速寺

戸崎町八十六番地ニ在リ本堂前面向拜ノ指懸屋根全ク潰倒セリ(此例酒田震災地ニ最多シ)就テ其指口ヲ見ルニ不完全ナルテノン モルチスナルガ如シ

壁上ニ火燈窓二個アリ孰レモ其上下隅角ヨリ凡四十五度ノ傾斜ヲ以テ壁面ノ罅裂セルヲ見ル

同寺本堂前面左方ニ鐘樓一字アリ屋根極裏板等嘗テ窮朽シタリシ者此般地震ノ爲メニ破壊シ屋上瓦片ノ一部四散セリ

小石川警察署

煉瓦石造平家ニノ外壁ト木造間仕切トノ間ニ垂直ノ裂隙ヲ

見ルノミ

砲兵工廠

砲庫 煉瓦石造漆喰塗ニ階家階下壁厚サ二枚階上一枚半ノ建物ナリ此建物ハ去夏地震ノ際處々ニ損害アリシモ其後之ヲ修補シタリシニ此度ノ地震ニ就テモ亦多少ノ被害アリ東北二方ニ面セル壁上ニハ微損ダニナキモ南西二面ニ於テハ石造劍石ト一枚厚ノ煉瓦迫持(半圓形)トノ間ニ於テ罅裂ノ生ゼル者七ヶ處ホンチヨリ裂損セル者一ヶ處アリ二階ニ於テ長方形ノ窓ハ大抵皆其下隅ニ於テ水平ノ裂損ヲ見ル七番及八番(圖面參照)迫持中間ノ壁上ニハ垂直ナル裂損ヲ見ル之ヲ驗スルニ其内部ニ柱アリ(圖ニ示スガ如シ此柱ハ此處ノミニ在ルニ非ラズ處々ニ在リ)

銃包製造場

煉瓦石造ノ建物ニシテ壁厚サ一枚半アリ塲後機械室ノ周壁ニハ持放(スパン)八尺三寸ノ出入口二個アリ厚サ一枚ノ煉石迫持ヲ架ス孰レモ其頂部ニ於テ罅裂ス

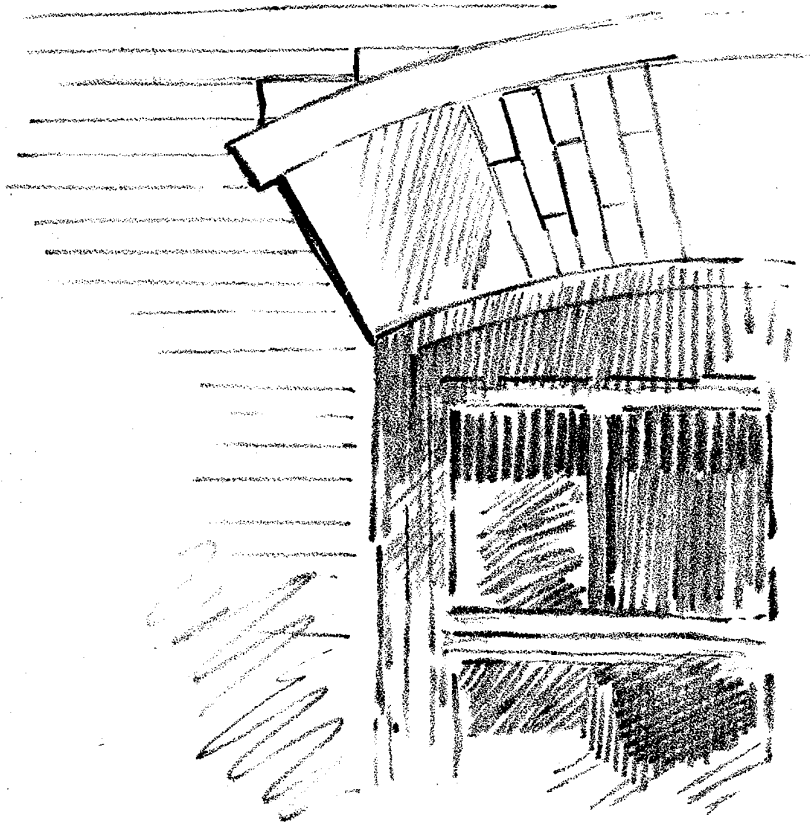
同壁上ニ持放六尺六寸五分ノ窓數個アリ孰レモ半圓形ノ煉瓦迫持ヲ架ス頂部及ホンチノ處ニ於テ罅裂ス又窓ノ下部ニ水平ノ罅裂アル者アリ

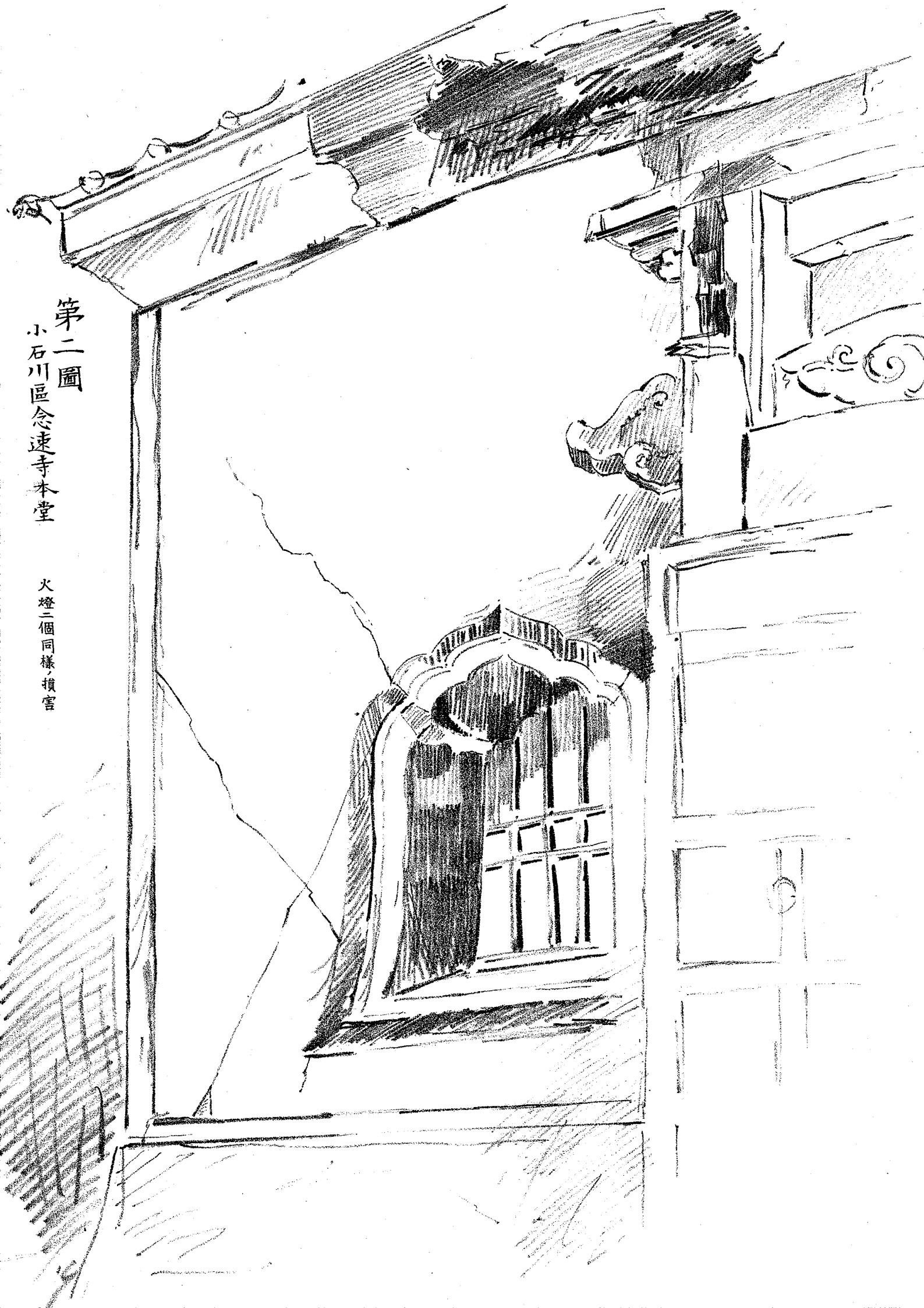
壓迫塲 壓迫塲ニ在ル迫持ノ内中心ヨリ六十度ノ方向ニ當

第一

本郷區第一高等學校

本館東北ニ在ル教場東ニ向ヒテ南北連ヒ壁上北ヨリ三番目ノ窓裂隙





第二圖

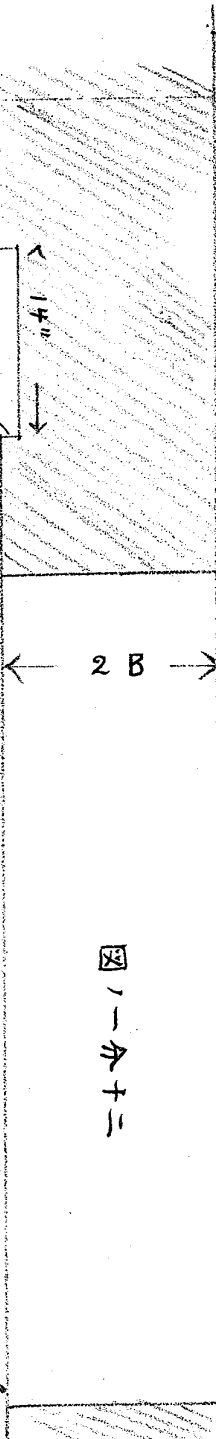
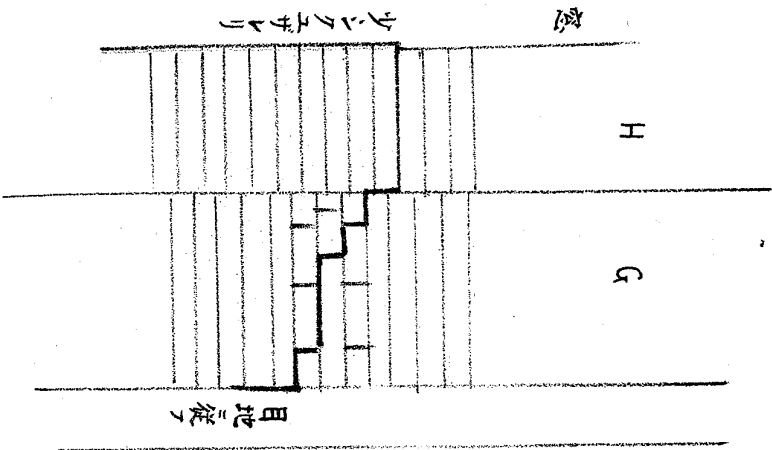
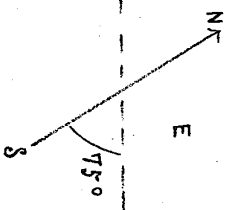
小石川區念速寺本堂

火燈三個同様，損害

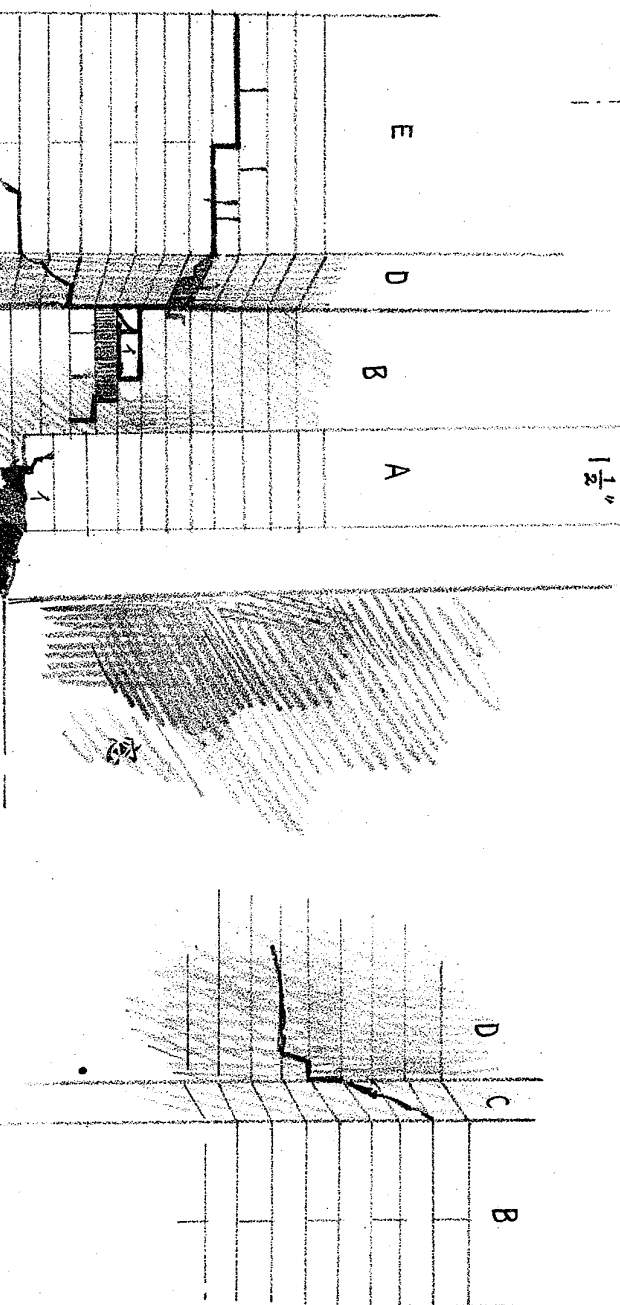
圖三第  
樓鐘寺速念區川石小



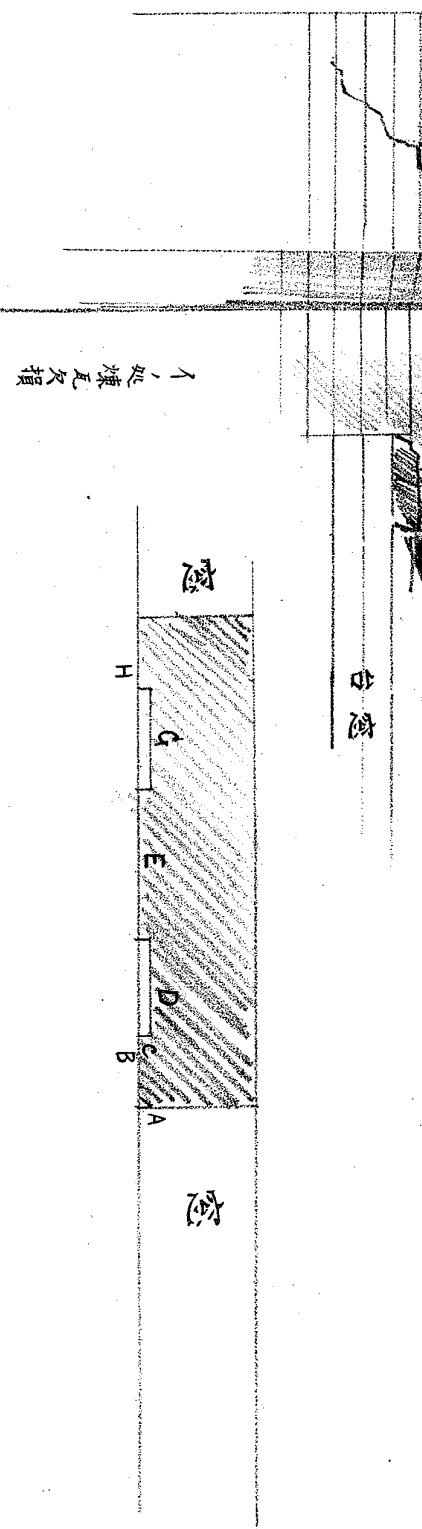
Block Plan.  
No scale



圖ノ一ノ十二  
5ft. 11 inch



第四圖 小石川區砲兵工廠内建物



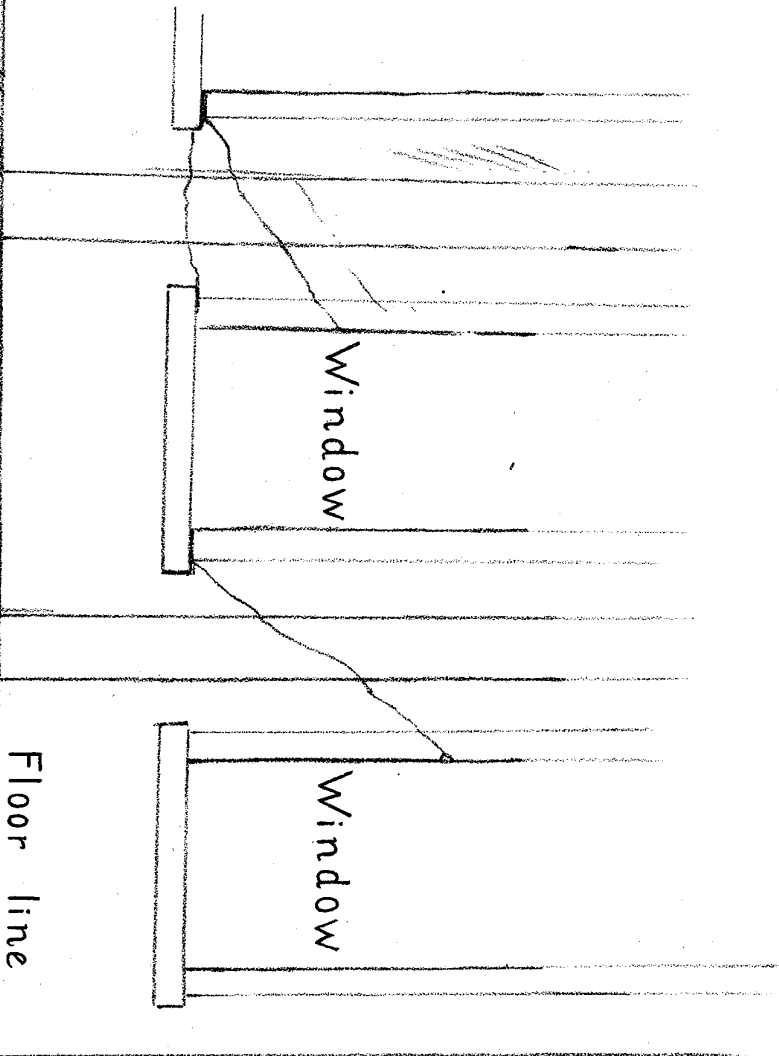
内

第

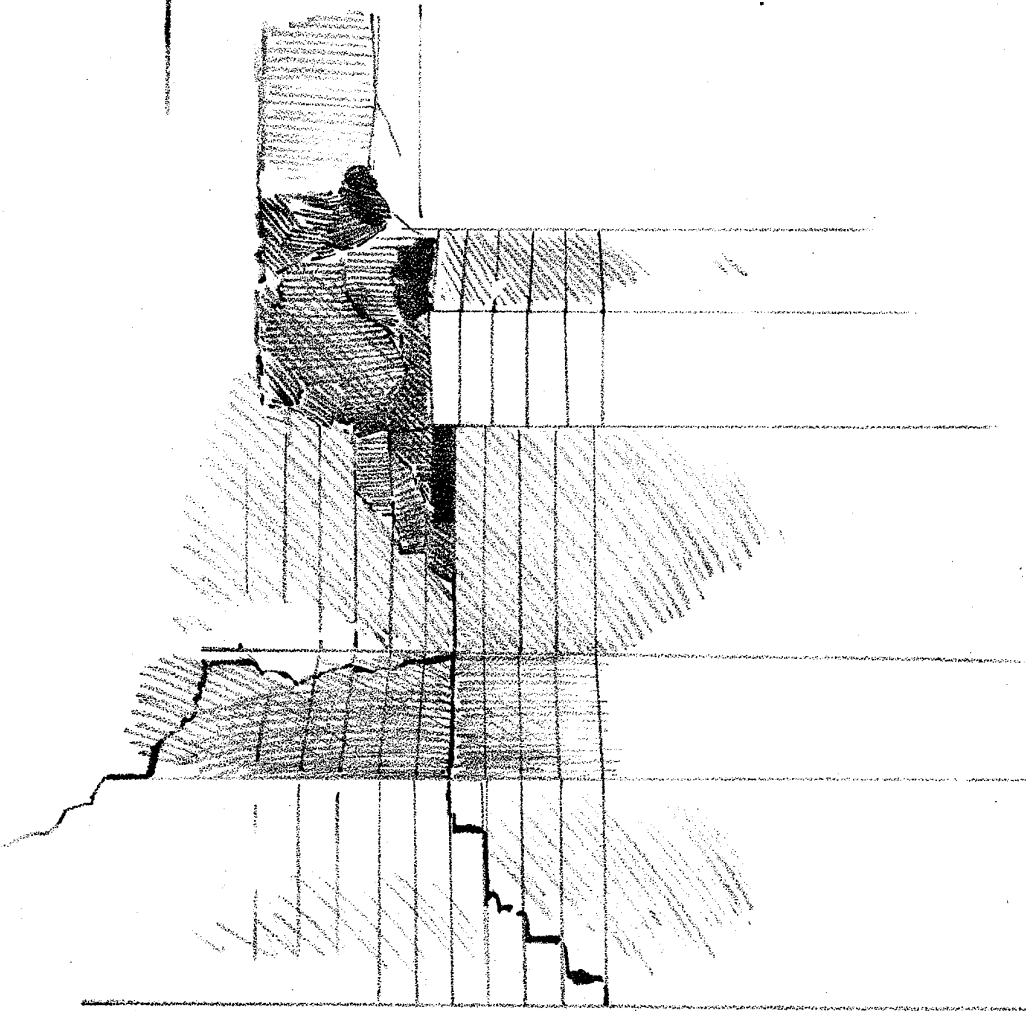
五

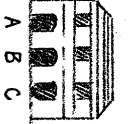
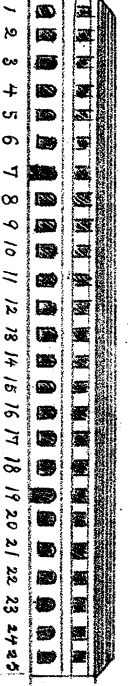
圖

小石川區砲兵工廠内建物



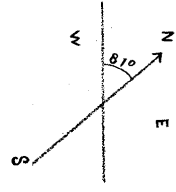
室内ヲ見ル図



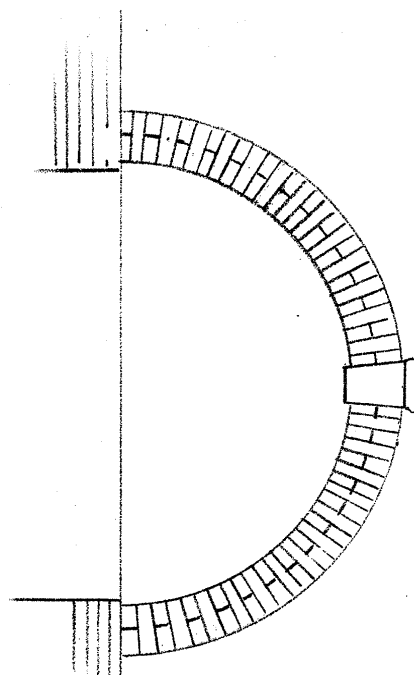


圖縮一分十

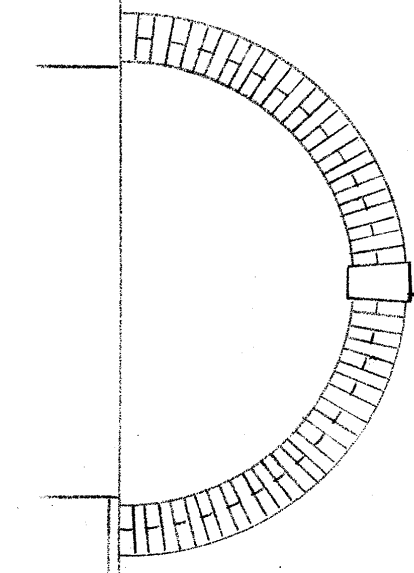
a



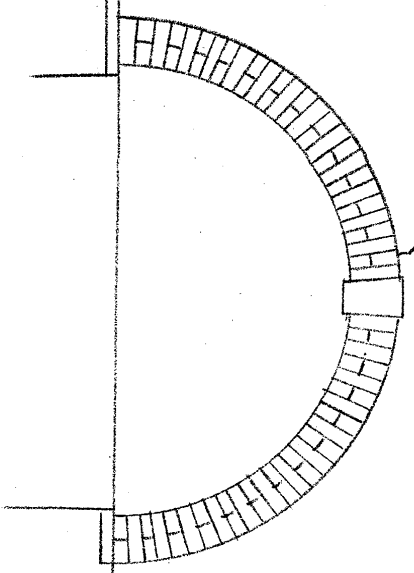
漆喰塗



No. 7.

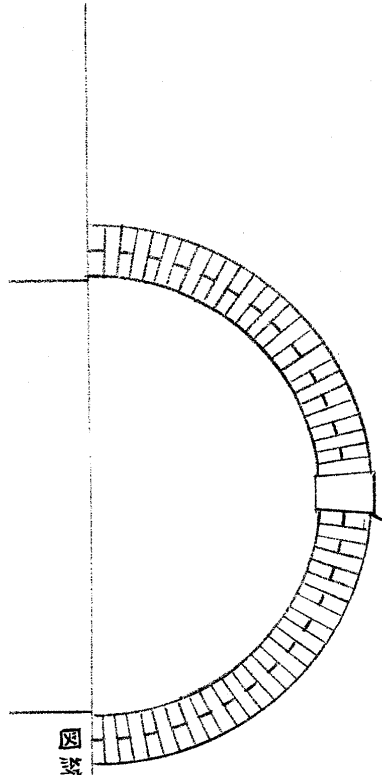


No. 11

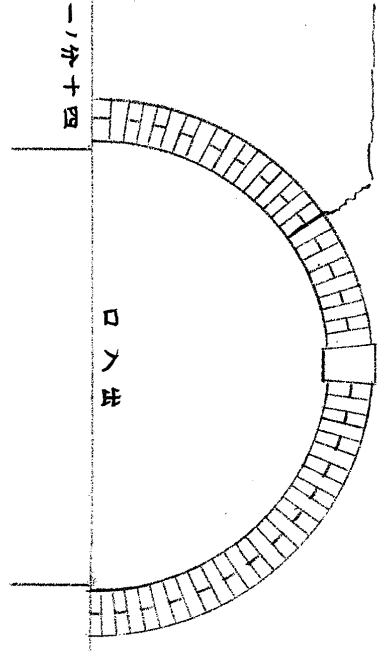


No. 12

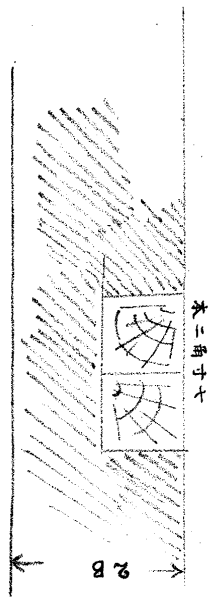
No. 14.



圖縮一分十四



口人井



木二寸寸七

口

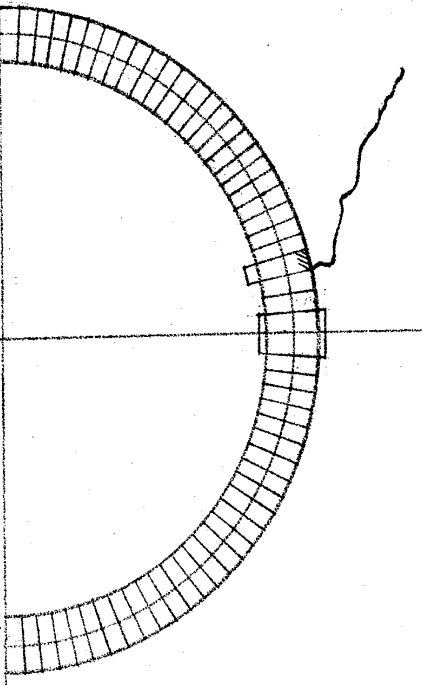
第六圖 砲兵工廠内砲庫



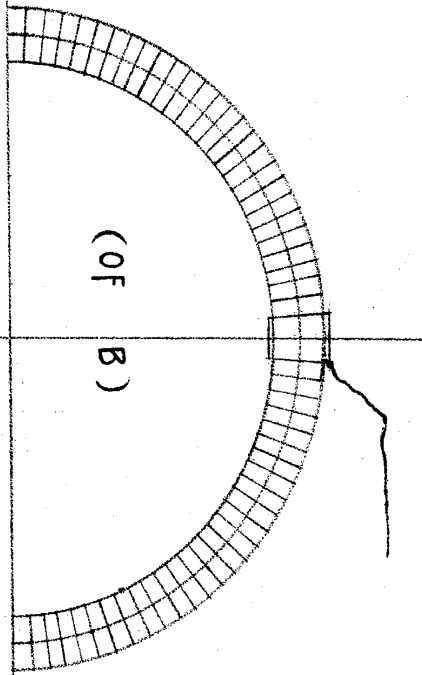
第七圖  
砲兵工廠內砲庫

No 6 (From the left Corner)

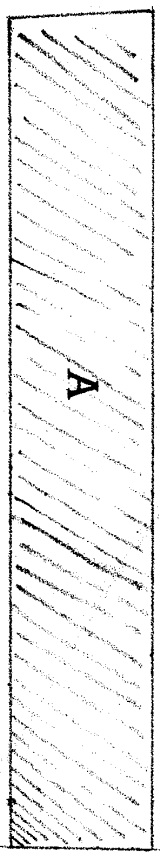
B



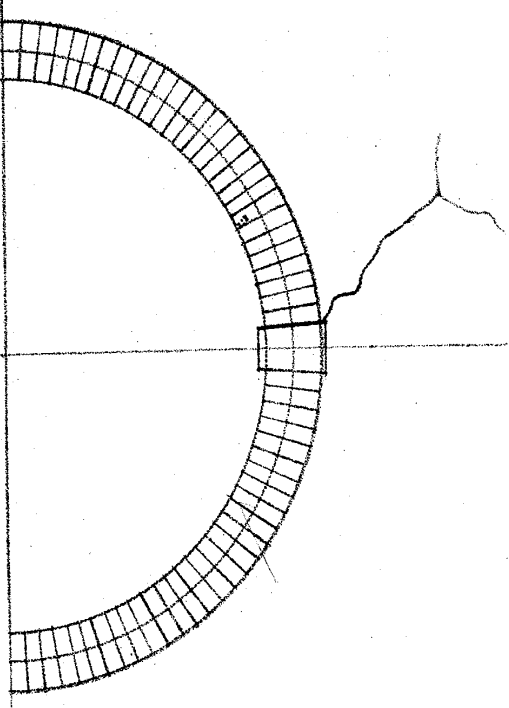
(of B)



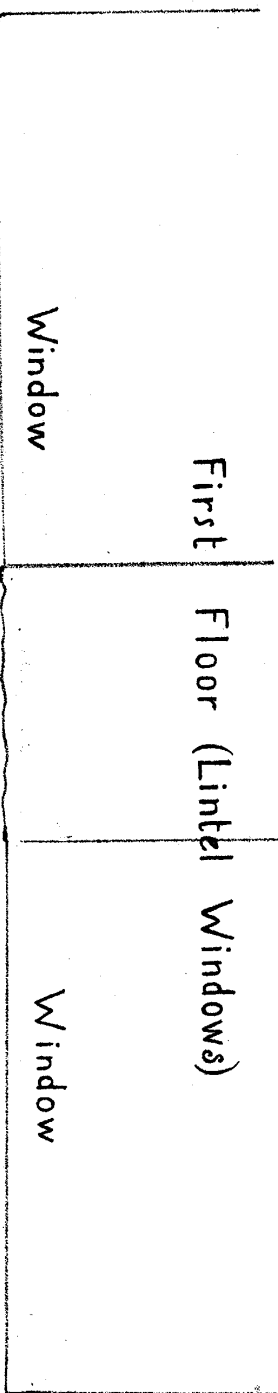
Block Plan  
Scale 1:1000



Scale 1:400

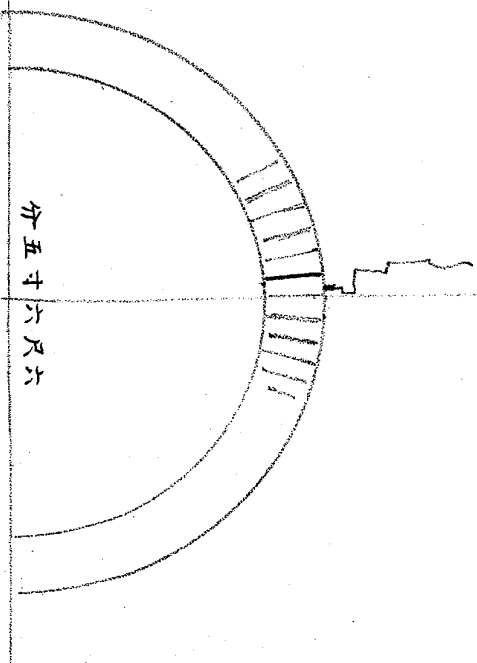
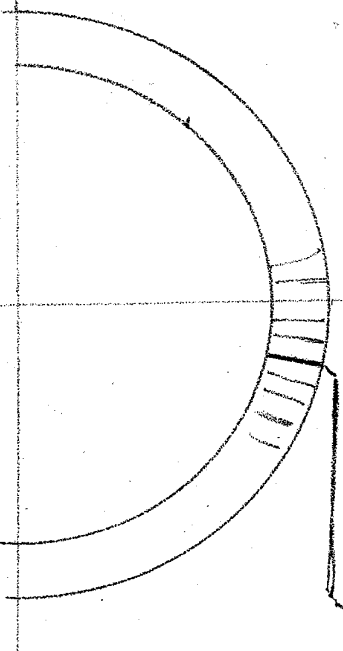
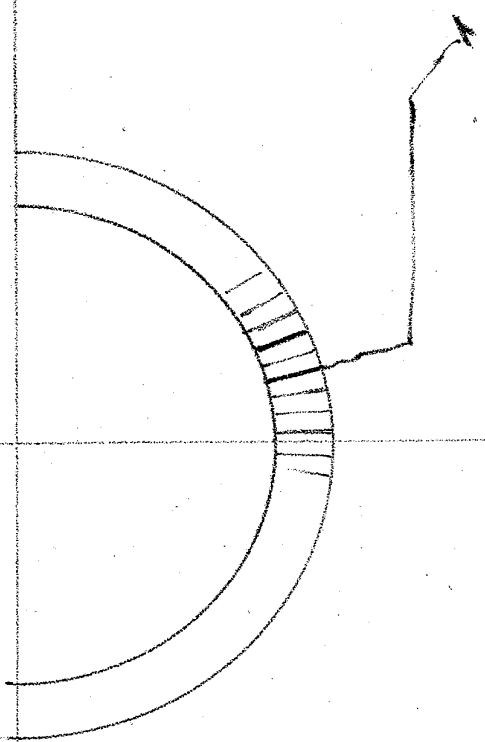
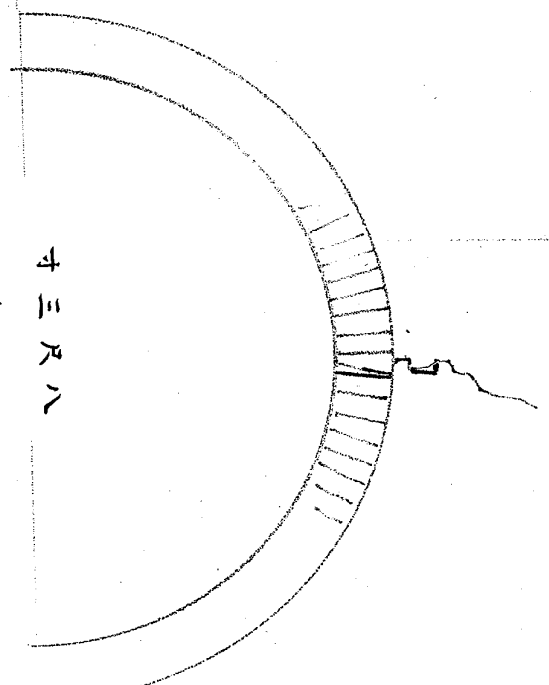
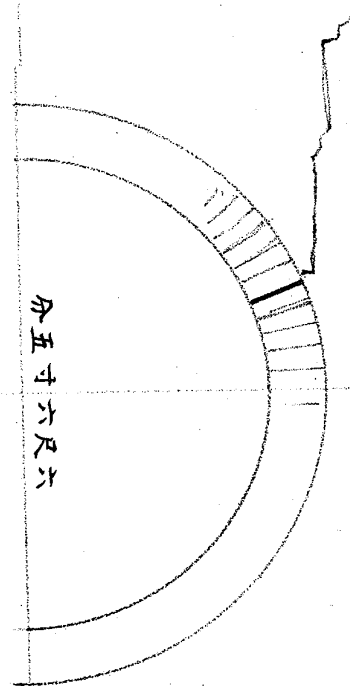
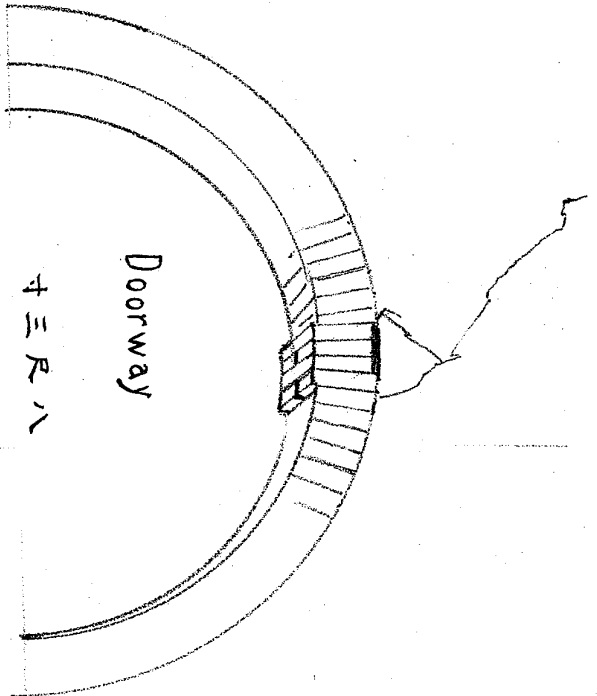


Window  
First Floor (Lintel Windows)  
Crack Horizontal (Very Common)  
Window



圖八 築砲所造製砲鏡內廠工兵砲

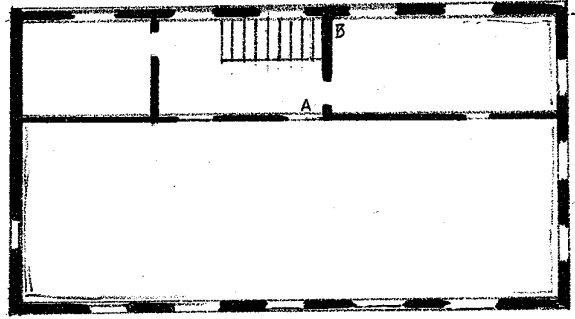
Thickness of the Wall is  $1\frac{1}{2}B$



Scale 1:40

室キノ。製木并天

濠



Plan of the 7<sup>th</sup> floor  
No Scale

第九圖

牛込警察署階上被害

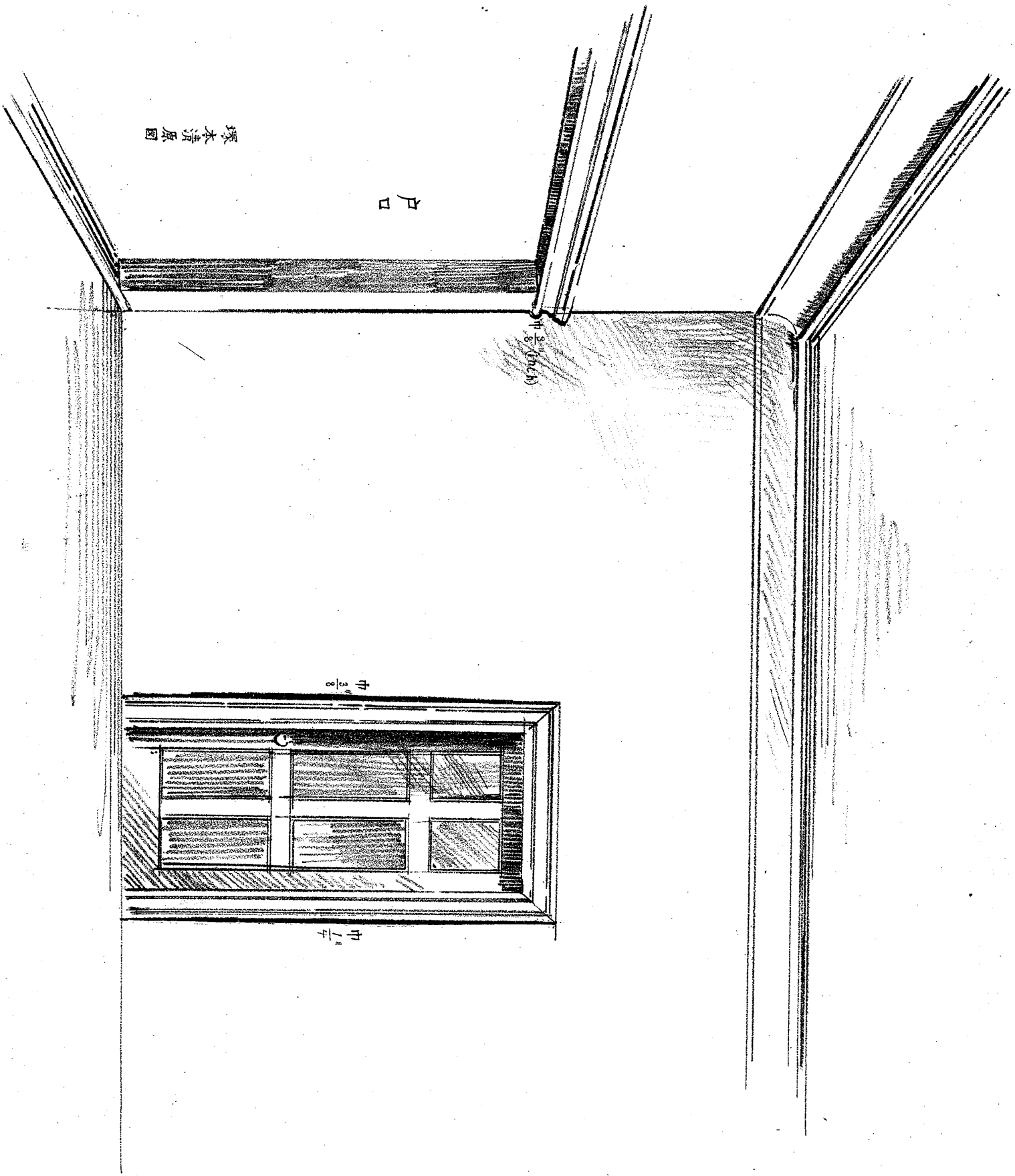
中  $\frac{3}{8}$  inch

(B)  
Window

Doorway  
(A)

中  $\frac{1}{2}$  inch

第十圖  
牛込警察署階下被害



リ裂損セル者一ヶ處四十五度ニ當リテ罅裂スル者三ヶ處頂上ヨリスル者一ヶ處アリ

工廠内北部ニ新造煉瓦平家アリ(去歲夏以後ニ成リシ者ノ如シ)其一部ハ壁内窓間ニ一尺角ノ松柱ヲ建テストラップヲ以テ處々之ヲ煉瓦壁ニ固着セシム他ノ一部ニ於テハ内部ニ柱ナシ内部ニ柱ナキ部分ハ微細ノ裂害ダニ被ラザリシガ他ノ一部ニ於テハ松柱ト煉瓦トノ密度異ナルヲ以テ其震動從テ異同シ爰ニ一ノ衝突ヲ生シ其結果トシテ窓ノ兩側下端ヨリ或ハ水平ニ或ハ斜ニ隣窓ニ達スル罅裂ヲ見ル而シテ其震動ノ力甚強カリシニヤ往々煉瓦ヲ破碎シテ粉末ト爲セリ同處ニ於ケル窓牖ハ盡ク皆此種ノ震害ヲ被ラザルナシ實ニ此般震害中最モ建築家ヲ寒心セシムル者ト謂可シ

砲兵工廠内煉瓦家ニ階造ノ建物ニシテ隅角ニ柱ヲ積込ミタル者アリ去夏地震ノ際非常ノ震害ヲ被リ現時修繕ニ着手セルヲ見ル元來積込柱ハ木材ノ腐朽ヲ招クノ弊アルノミナラズ其震動ニ大患アルハ尾濃震災以後往々其例證ヲ見ル所タリスノ如キ構造ハ生ノ取ラサル所ナリ

廠内猶數多震餘ノ記念物アレモ孰レモ去歲震災ノ遺物ニ係ル故ニ今爰ニ之ヲ贅セズ

#### 帽子製造會社

帝國大學植物園ニ近キ卑下ノ地ニ在リ構内東部溝ニ面セル煉瓦造平家(壁厚一枚半)ニハ角窓上部ノ隅角ヨリ軒蛇腹ニ達スルノ罅裂及同下部ヨリ斜ニ側石下端ニ走レル裂目アリ蓋溝渠ニ面セル方地盤佳良ナラザリシヲ以テ局部沈降若クハ土壤側遁ノ結果斯ノ如キ損害ヲ來タセシニハ非ル歟

#### 細川邸

目白ニ在リ木造西洋家ナリ

内部張付ノ壁紙周邊ニ於テ剝落シタル外被害ナシ

土藏壁面孕ミ出シ去夏震動ノ際罅裂セル處破壊セリ

#### 山縣邸

#### 土方邸

孰レモ被害ナシ

#### 牛込區

全區ニ就テ觀察スレハ城濠ニ沿ヒ南部ヨリ東部一帯ニ損害多ク高燥ナル地方ニハ之レ鮮シ

牛込區ニ於ケル震害ハ土藏ノ壁鉢卷ノ剝落家根瓦ノ脱落等ニシテ就中最著シキハ原町二丁目及坂代町ニ各一ヶ處市ケ谷田町ニ二ヶ處アリ

警察署

瓦葺下見板張二層造ノ建物ニシテ其東方一面ハ城濠ニ接ス濠ニ面スル方沈下シ該方面ノ壁ト間仕切トノ間ニ裂隙ヲ生ゼリ(去歲六月地震ノ被害箇所ハ全ク修補ヲ了リタル後此等ノ損處ヲ生ヅタル也)

荻昌吉氏邸

砂土原町二丁目ニ在リ煉瓦石漆喰塗三階造ニシテ壁厚ハ二階ニテ煉瓦二枚ナリ同邸中央ニ聳立セル烟筒ノ頂部崩壞墜落セシガ爲メ三層共ニ床ヲ貫壞シタリ加之ナラズ同家東南壁ハ少シク外面ニ向ツテ傾斜シ二階床ノ處ニ於テ巾一吋ノ裂隙ヲ見ルニ至レリ

同家階上階下窓牖上部半圓形迫持ハ大抵皆其頂部ニ於テ裂隙ス

陸軍士官學校

全体ノ建物ハ外圍ニ於テ被害ナシ唯間仕切木摺壁ノ處々ニ垂直ノ小龜裂ヲ認ルノミ

同校構内電燈館ハ汽罐室ト發電機室トノ中間ナル間仕切壁(厚サ煉瓦一枚ニシテ佛蘭西積ナリ)ト外壁トノ間ニ凡一吋ノ垂直裂隙ヲ生ジ及同壁上出入口上部楣及橢形受壓迫持(セグメンタルレリーフアーチ)ノ左端ヨリ斜ニ生

シタル罅裂ヲ見ル

同處外壁上ニ在ル窓牖ニハ其上部橢形迫持ノ左端ヨリ斜ニ煉瓦目地ニ沿フテ走レル罅裂アリ

又同處烟筒ハ嘗テ煉瓦造ノ者ニシテ高サ四十餘尺アリシガ去夏地震ノ際破碎墜落セシヲ以テ後改メテ鐵管トナシ高サヲ増シテ五十尺トナセシガ今回ノ地震ニ就テハ異狀ナシ

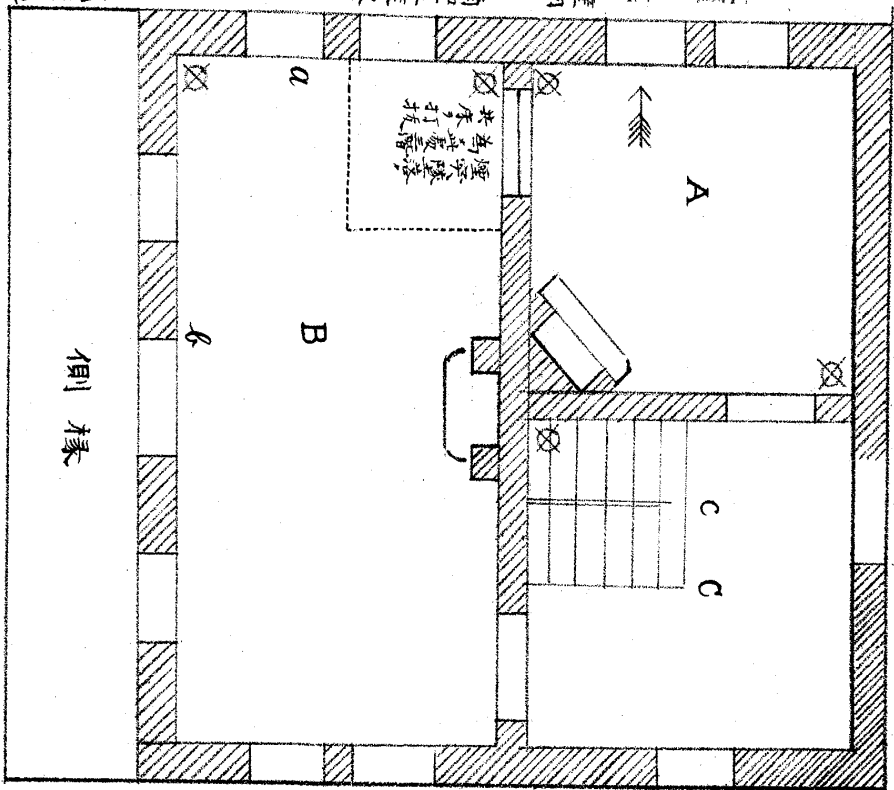
同校内右方二字ノ建物ヲ連續セル窄小ナル煉化壁アリ壁上持放三尺ノ出入口アリ其上上部楣ノ處ヨリ水平ニ右方ニ向ツテ走レル裂罅アリ又其右方ノ高キ建物ト此微小ナル障壁トノ間ニ在ル重箱石(クオイノストーン)ハ相州産堅石ヲ以テ造レル者ナルガ往々破碎ヲ免レズ亦以テ震動ガ斯ノ如キ大小二個ノ建物ノ連續部ニ對シ大ナル災害ヲ與フルヲ知ルニ足レリ

市ヶ谷監獄支署

市ヶ谷監獄支署内ニ煉瓦造平家一棟炊事場ニ接シテ建テル者其出入口楣ノ隅角ヨリ斜ニ建物ノ隅ニ向ツテ龜裂セリ

其他外圍ノ瓦筋塀ニ破損セシ箇所少ナカラズ今其處々ヲ列記スレバ女監表門鍛冶工場裏(凡三間許崩壞)十二間監木工塀前面(二間許破壞)二十六間監(三間許崩壞)等是ナリ今其崩壞セシ部分ニ就テ之ヲ驗スルニ元來瓦筋塀ハ煉瓦石壁ト

此處迴廊以日本家二連結又



第十一圖

牛込區佐土原町二丁目一番地  
萩昌吉氏邸二階地繪圖(縮尺)

印、震裂損  
壁天方向二傾

壁厚殊九寸

壁向

南四十二度東

間柱切込二尺七寸五分

三尺一寸五分

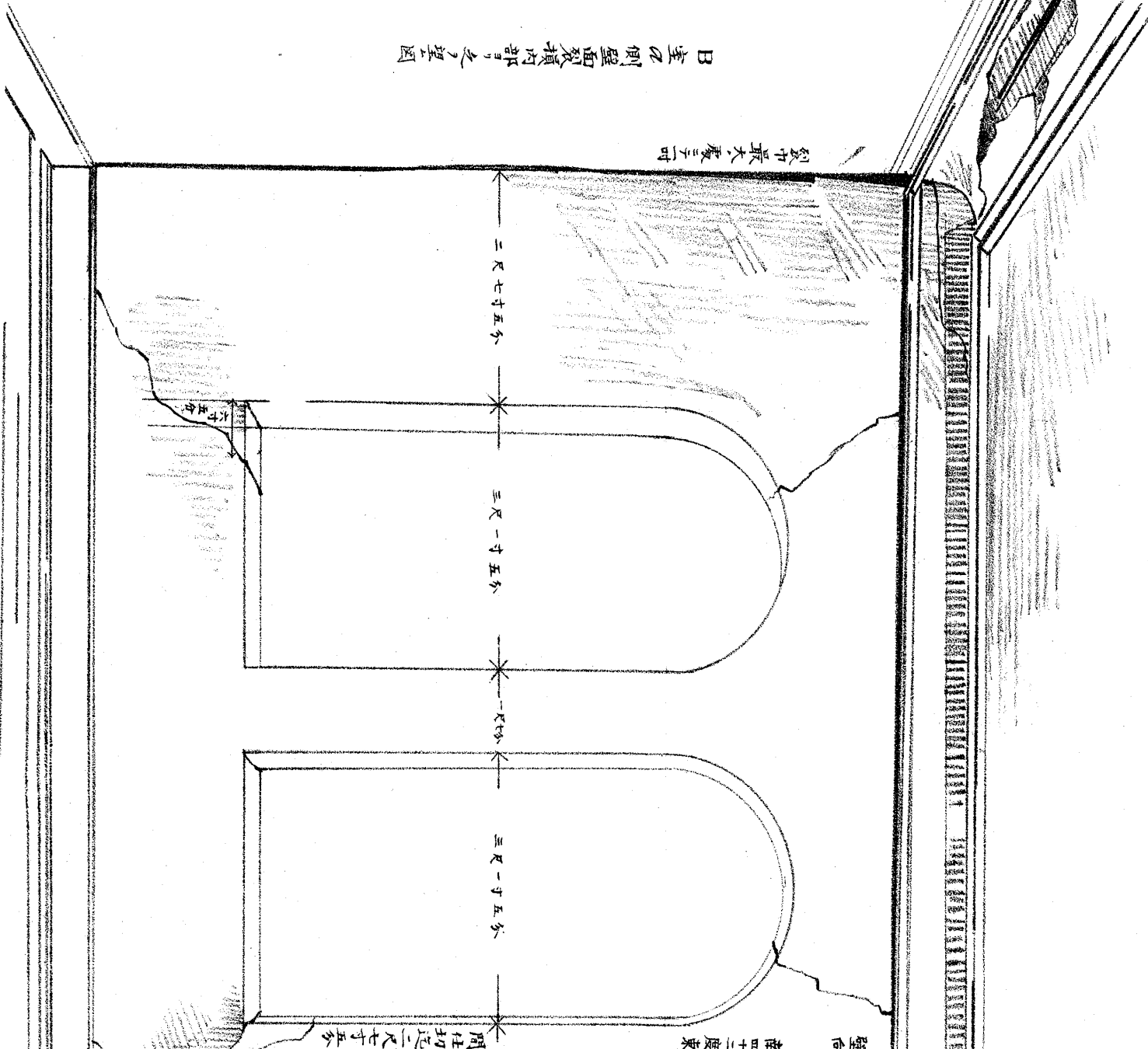
一尺四寸

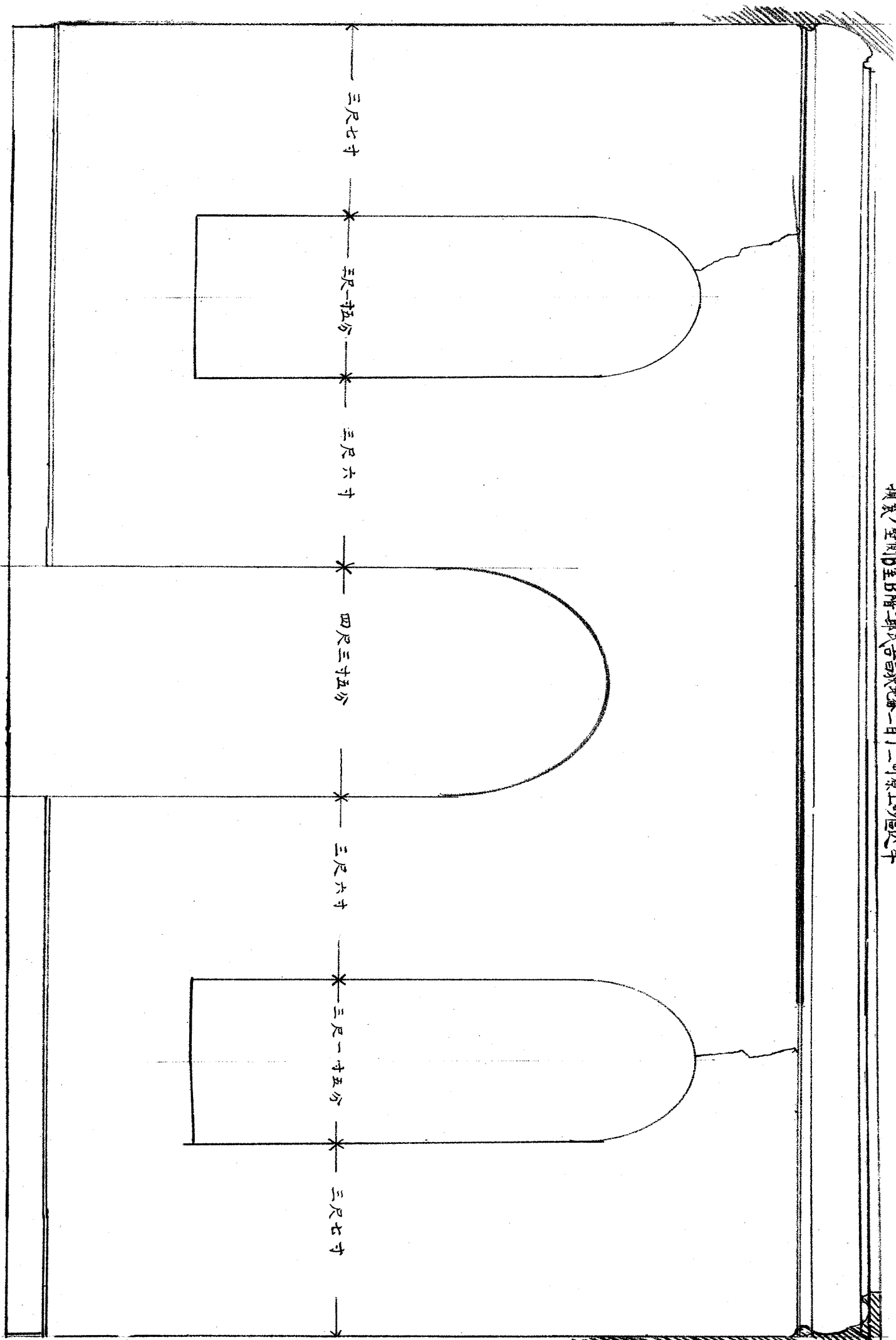
三尺一寸五分

二尺七寸五分

裂中最大處三寸

B室の側壁面裂損内郭之ノ埋土図

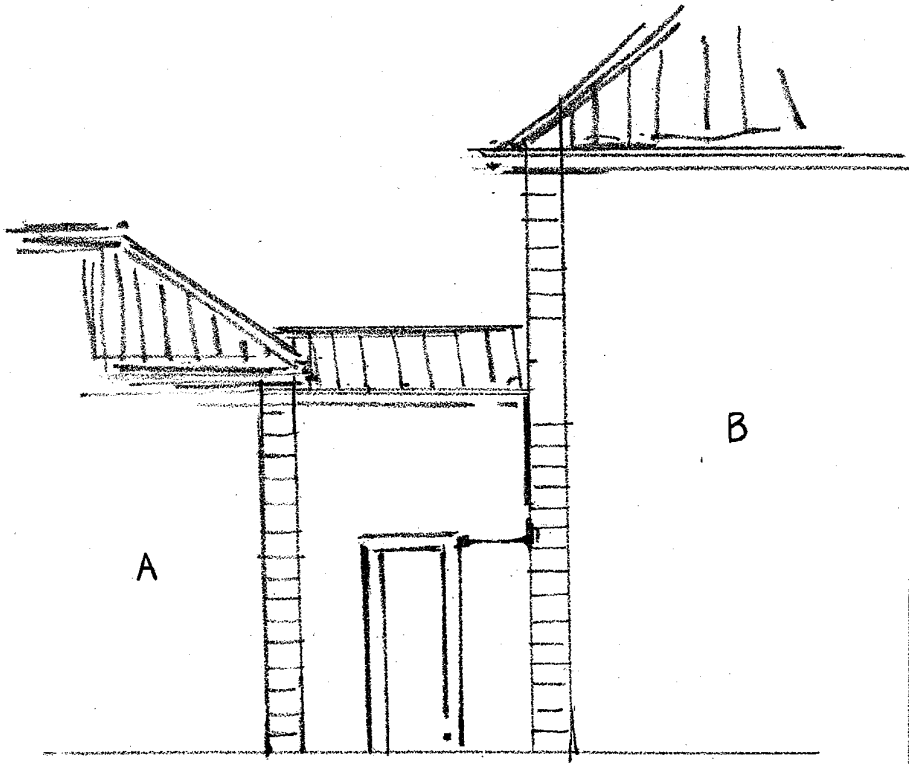




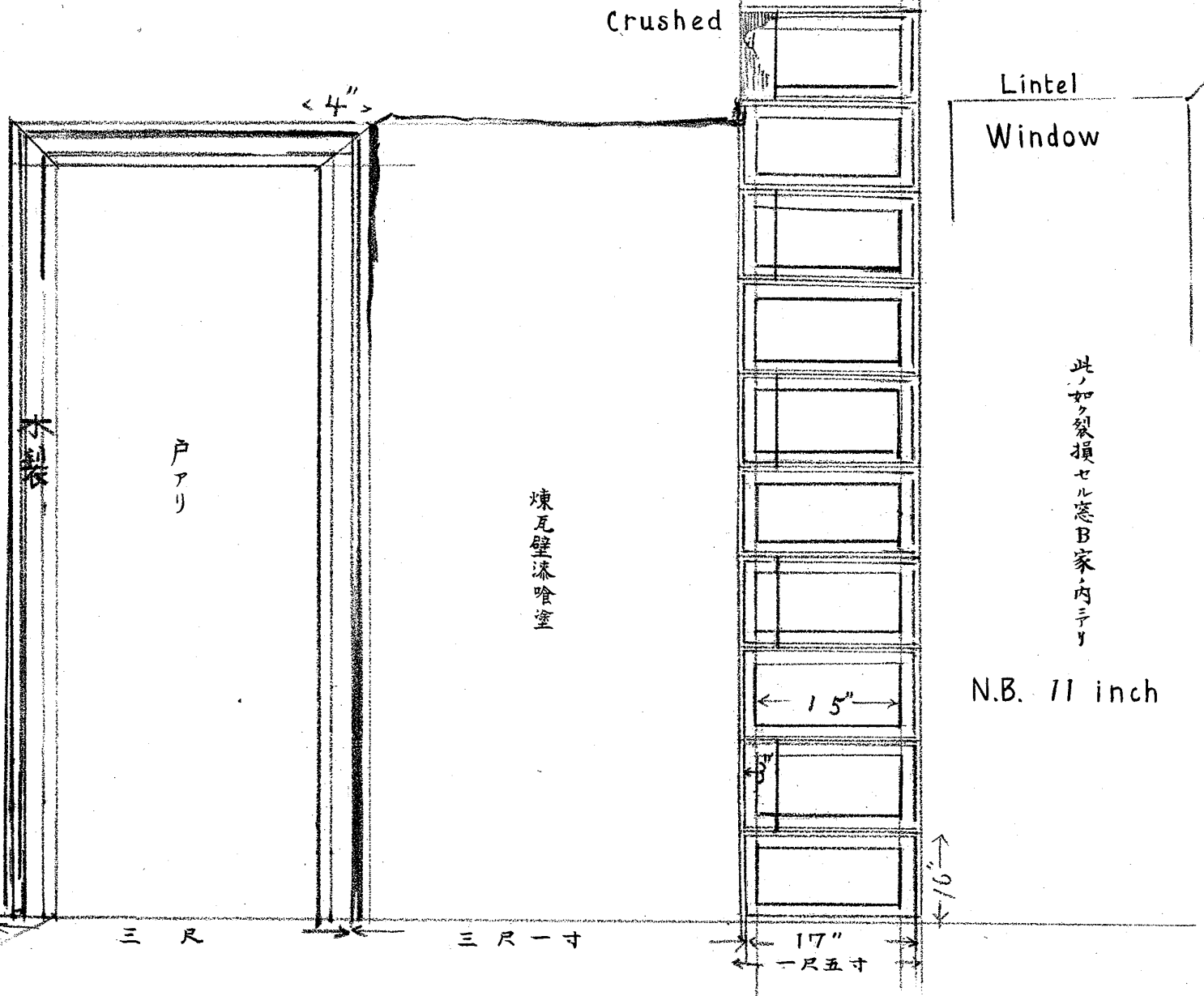


第十三圖

牛込區陸軍士官學校内建物震害



The direction of the Wall  
is S 62° E



煉瓦壁漆喰塗

Lintel  
Window

此ノ如ク毀損セル窓B家ノ内ナリ

N.B. 11 inch

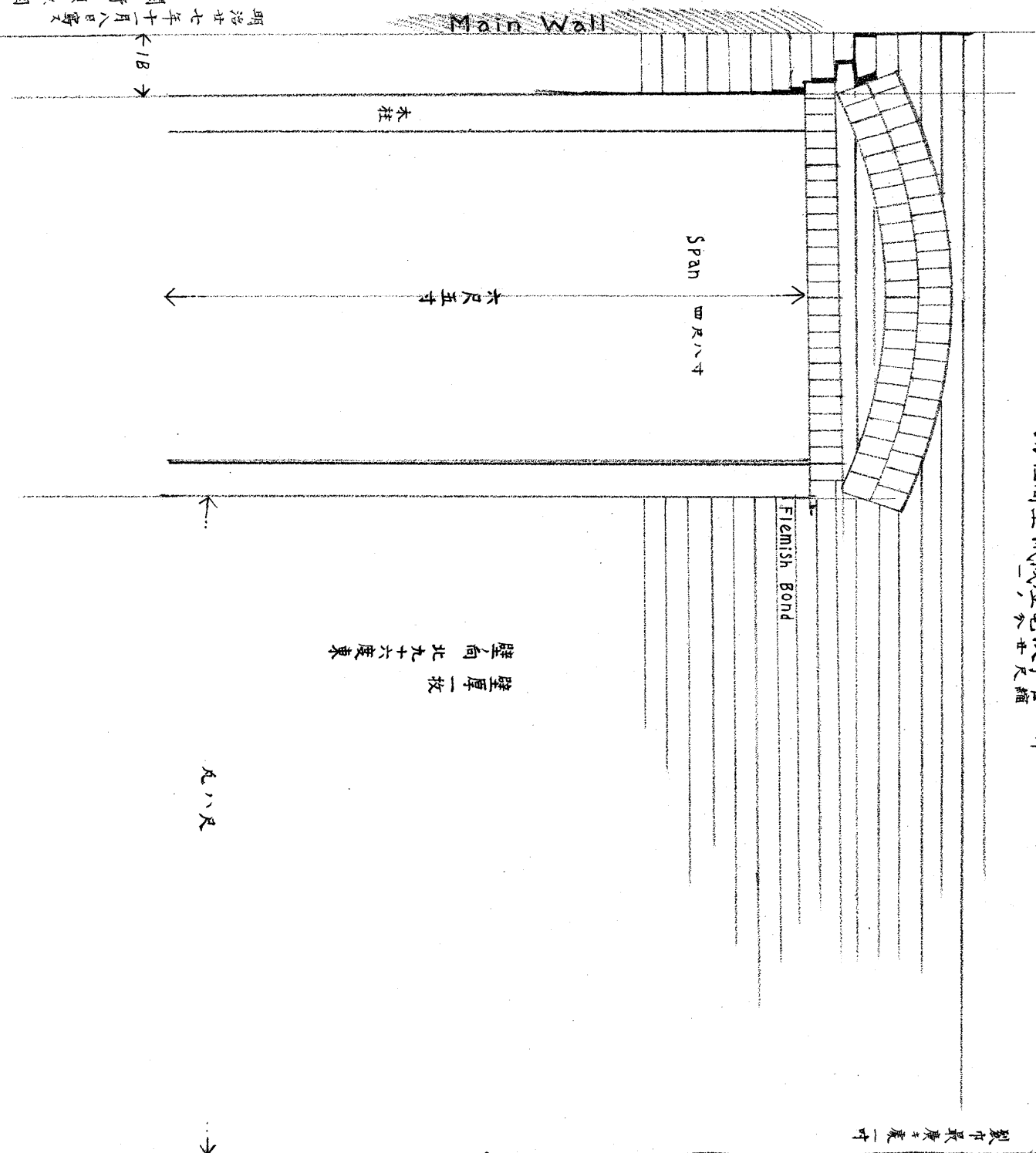
三尺

三尺一寸

17"  
一尺五寸

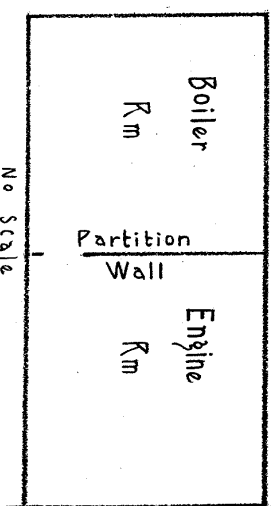
16"

第 十 官 士 軍 陸 區 邊 牛  
圖 四  
切 仕 間 室 機 燈 電 拔 學 尺 廿 羅

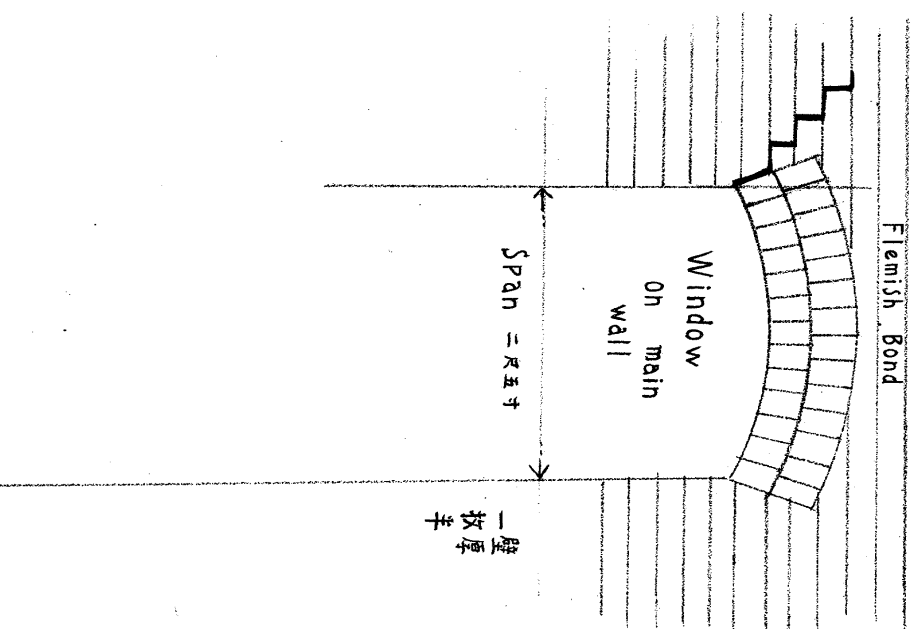


製 中 最 度 之 處 寸

Chimney



No Scale  
This Plan shows only  
the Configuration of  
Main Wall Partition  
and Chimney



同性質ノ者ニシテ通常ノ瓦片ヲ漆喰ノ厚目地ヲ以テ積ミタル者ニ外ナラズ而シテ其表裏二面ノ間ニハ泥土瓦礫ヲ充タシ處々ニ於テ表裏ノ連絡ヲ通ズ斯ノ如キ性質ノ者ナレバ地震ノ爲メニ往々破碎ノ患ヲ免レザルハ蓋偶然ニ非ル也然ルニ此監獄内ニ築造セル瓦筋塀ハ其構造更ニ劣等ニシテ前後ノ連絡ノ如キハ全ク之ヲ見ザル也加之ナラズ其軒ノ構造頗不完全ニシテ唯單ニ漆喰地上ニ瓦ヲ附着セルノミ

瓦壁面上ニハ厚ク漆喰ヲ塗リタル此等ノ漆喰ハ大抵剝落セリ

去ル廿四年尾濃震災ノ際尾張國有松町ノ一寺ニ於テ見タル瓦筋塀(崩壞セル)ノ構造ハ全ク此監獄署ノ者ト相肖タリ

同監獄内家根ノ缺損瓦ノ墜落等ハ炊事場屏禁室木工場等數所ニ在リ

#### 四谷區

四ツ谷區ニ於テ奇ナル現象ハ高燥ノ地ニ震害多ク卑下ノ地ニ比較的少ナキノ事實是ナリ之レ實ニ異シム可キ現象ナルガ如シト雖<sub>ニ</sub>或ハ土地ノ高燥ナル處ハ其以前嘗テ置土等ニテ築キタルニハ非ルカ若シ然ラズトスレバ高處ニハ比較的劣等粗造ノ家屋多カリシニ據ルカ之ヲ要スルニ此區ノ震害

ハ高低兩地ニ於テ孰レモ藉甚ナル者ニ非ラズ  
谷町一丁目湯屋ノ烟突二個中央部三四尺裂壞シ傳馬町二丁目十四番地ニ在ル柿萱平家ハ之ニ隣レル土藏鉢卷ノ墜落セシ爲メニ屋根ヲ突破ラレタルコト凡八坪許ナリ  
學習院ハ去歲六月地震ノ際大破ヲ受ケタリシガ此回ノ地震ニハ幾何ノ加害アリシヤ明瞭ナラズ  
以上陳述シタル外土藏ノ龜裂數ヶ處アリ

#### 赤坂區

一般ニ之ヲ言ヘバ區内城濠付近卑下ノ地ニ被害多ク青山近傍ノ高處ニハ震害少ナシ此事實ハ今回ノ地震ニ於テノミ特ニ然ルニ非ラズシテ安政年度ノ震災ニ於テモ亦然リシト云

震害ノ數ハ警察署ノ調ニ依レバ  
土藏ノ破損 三十ヶ所 土藏ノ龜裂 三十五ヶ所  
家屋ノ小破損 七十七ヶ所 煉瓦壁破損 三ヶ所  
烟突ノ破損 六ヶ所 物置ノ破損 二ヶ所  
就中被害ノ稍著シキ者ヲ擧ゲレバ  
田町一丁目十番地ノ家屋壁土剝落シ同町二丁目一番地ノ土藏住家ハ庇屋根中央ヨリ墜落シ壁面處々ニ罅裂ヲ生ゼリ就テ之ヲ驗スルニ板下地及壁上下地ノ繩索等朽損シ居レ

リ

赤坂警察署

煉瓦石造平家ニシテ間仕切ハ木造也去年六月地震ノ際其窓牖ノ各部隅角ノ處ヨリ龜裂ヲ生シ頗ル危殆ノ狀ヲ呈シタリシガ其後全ク損處ヲ取去リ新ニ之ヲ修補シタリシヲ以テ此度ノ震動ニハ災害ヲ被ラザリシ

矢野氏邸

煉瓦石造石色塗ニ階屋ニシテ去年震災ノ際其被害頗大ナリシガ後階上ヲ木造ニ改メシカバ此般ノ地震ニハ被害ナシ唯正面街路ニ面スル所階下ノ窓牖楣石ノ隅角ヨリ小罅裂ヲ生ゼリ蓋シ去夏震災ノ遺殘物ナル可シ

近衛第三聯隊兵營

去歲地震ノ際生シタル被害ノ箇所修繕未完ナリシ爲メ其局部再ビ裂損ス

赤坂區役所

煉瓦石二階家ニシテ下層ハ石色壁ナリ階下ノ窓ハ陸迫間草ヲ冠シ階上ノ窓ニハ楕形迫持ヲ架ス異狀ナシ

麻布區

麻布區内ニ於テハ半潰住家一ヶ處不住家一ヶ處ニシテ破損ハ住家二十三ヶ所不住家三十一ヶ處アリ孰レモ朽窮敗餘ノ

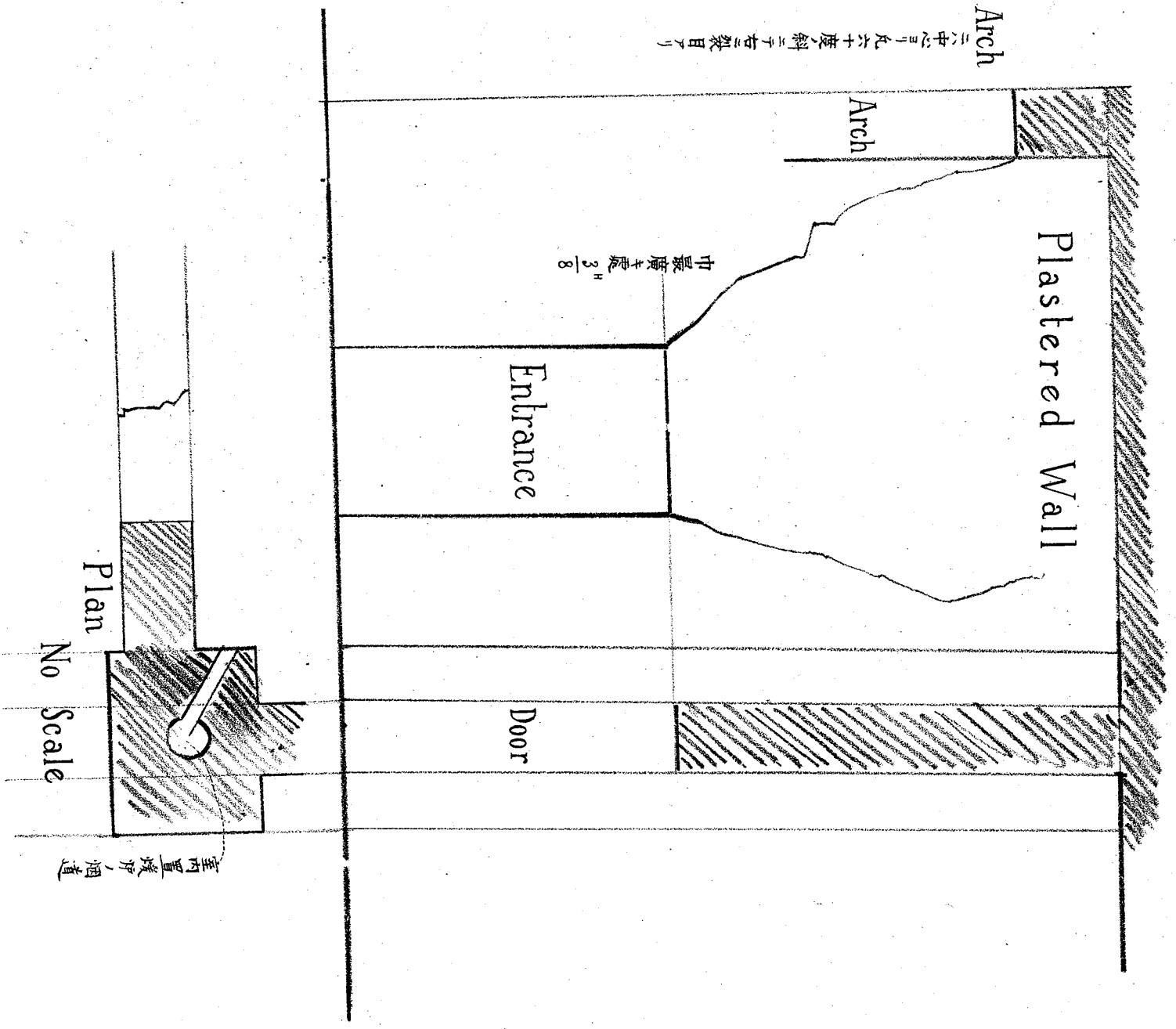
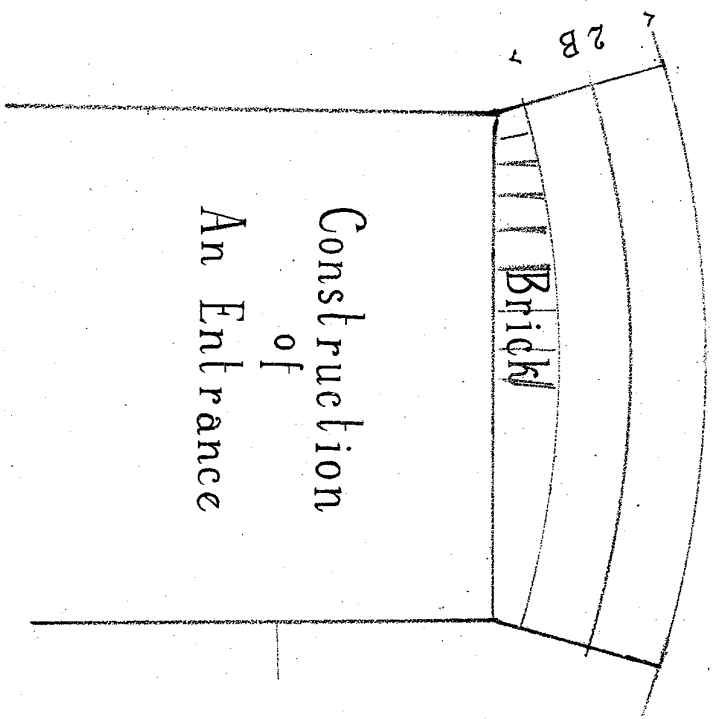
矮屋ニシテ就中震害ノ最強カリシハ飯倉五丁目及簞笥町ナリ殊ニ後者ハ全家歪傾シ天井墜落セリ

建物ノ種類ニ就テ言ヘハ土藏及住家ノ壁剝落シ屋根瓦墜落シタルノ類多ク又煉瓦ニテハ飯倉五丁目湯屋ノ烟突破損シ新網町二番地ノ煉瓦塀ノ崩落セルアリ孰レモ工事ノ粗惡ナル建築家ノ考究ヲ煩ス可キ者ニ非ラズ

師團第三聯隊兵營

此兵營ハ昨夏ノ震害甚大ニシテ各處ニ大破小破ノ罅隙アリシヲ修繕シ置キシニ今回再ビ前ノ箇所ヨリ破損スル事トナレリ故ニ此震害ハ寧ロ前年震災ノ結果ナリト云ハザルヲ得ズ然レモ其地繪圖被害ノ箇所ノ頗ル耐震的ナラザルト現今ノ修繕方法其宜シキヲ得ザルトハ建築家ノ一見シテ疑ハザル所ナリ故ニ爰ニ故ラニ同兵營ノ地繪圖ヲ載セ且聊現今施行セル修繕方法ヲ述ベントス

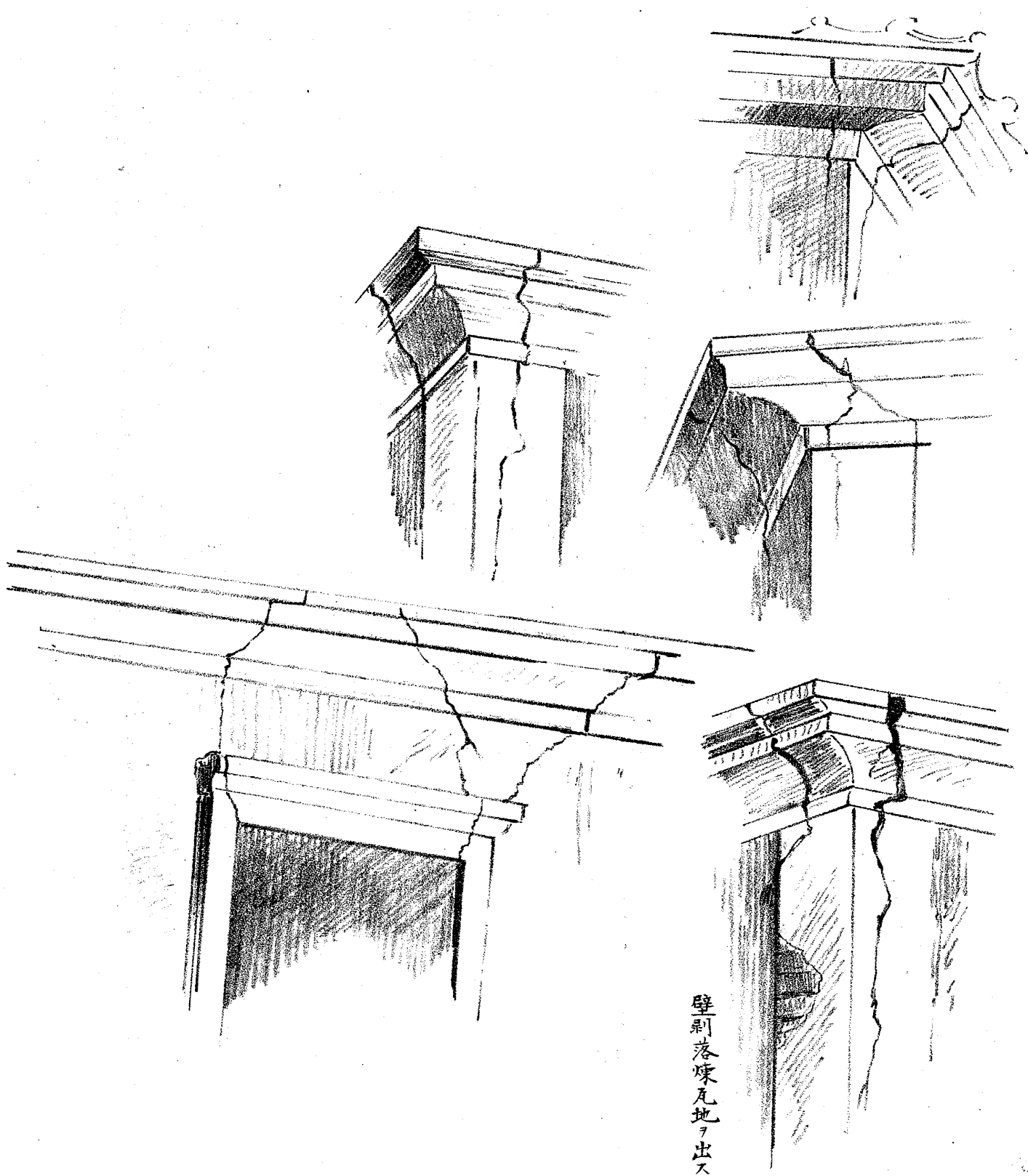
三聯隊ノ兵舎ハ總テ三棟ヨリ成ル孰レモ煉瓦造三階家ニシテ屋根ニドノ窓ヲ穿チ小屋内ヲ倉庫ニ充ツ其形狀大小孰レモ相同シク其地繪圖モ亦全ク相同シ内ニ二棟ハ平行ニ相並ヒ一棟ハ之ニ直交シテ排置セラル斯ク其方向ノ全ク相異ナルニモ拘ハラズ其損害ノ箇所被害ノ大小ハ三棟共ニ全ク相同シ之レ明カニ建築物ノ弱點全ク同一ノ處ニ存セルヲ表示



第十七圖

麻布區千家尊福氏扣郵建物四隅及窓上之裂壞

煉瓦厚階下三枚半



壁剝落煉瓦地ヲ出ス

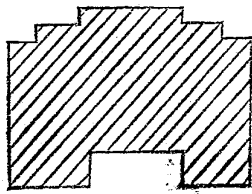
セル者ニシテ斯クノ如キ著シキ弱所ヲ有セル建築物ニ在リテハ震動ノ方向如何ニ關セズ常ニ其被害ノ箇所ハ一定不易ナルヲ證セル者ナリ

迫持ノ被害ハ(半圓形迫持)宛モ中心ヨリ六十度ノ所ニ當リ罅裂スル者ト凡三十度ノ位置ヨリ裂損スル者トヲ以テ最多シトス其他ニハ頂ヨリ切レタル者ニク處アリ又戸口楣ノ兩端ヨリ斜ニ罅裂セル者數處アリ孰レモ楣上部ノ受壓迫持ト水平積煉瓦トノ境界ヨリ裂損セルナリ而シテ其罅裂ノ大ナル者ニ至テハ往々其中八分ノ三吋ニ達セル者アリ

構内ニ將校集會所アリ二階造煉瓦家ナリ其構造頗不完全ナリシニヤ昨年六月ノ地震ノ爲メニ屋内半圓形ノ迫持ハ悉ク罅裂セリ殊ニ其階段室ノ如キハ上部蛇腹ヨリ階下ノ窓ニ達セル數條ノ裂痕アリ

松岡康毅氏邸

松岡氏邸ノツラシ



煉瓦石漆喰塗二階家ニシテ壁厚ハ階下ニテ二枚ナリ此建物ハ其地繪圖頗ル異ナルニモ拘ハラズ其構造佳良ナリシニヤ昨夏今春兩度ノ震災ニ毫毛ノ龜裂ヲ生セズ昨年ノ震災ニハ煖爐烟突崩壞セシモ後之ヲ修繕シ其上部ハ土管ヲ鐵葉アリキトス

ニテ包ミタル者ヲ以テ煉瓦ニ代ヘタリシガ其結果良好ニシテ此度ノ地震ニ少シモ被害ナシ

千家尊福氏扣邸

昨夏ノ地震ノ爲メニ二階軒先ニ罅裂ヲ生シタリシガ此回ノ震動ニ依リ更ニ其裂口ヲ廣メタリ

其他三條邸教會堂等被害無シ

以上研究シ來リタル處ヲ概要スレバ

地行 地行ハ濠ニ接近シ或ハ溝渠ニ臨ム如キ地若クハ卑下ノ地ニハ特ニ注意ヲ加フ可シ

煉瓦石造 煉瓦石造ノ新シキ建築物ハ舊建築ニ比シテ被害

少ナシ之レ理論上頗ル異シム可キノ現象ナリ何トナレバ

煉瓦石造ノ強弱ハ概シテモルターノ強弱ニ在リ故ニ年月

ヲ經過スルコト少ナキ者ハモルターノ凝固充分ナラザルヲ

以テ從テ其建築物ハ堅牢ナラザルノ理ナリ然ルニ實際上

全ク然ラザルノ理由ハ要スルニ輓近建築社會一般ニ耐震

ノ考想ヲ注入セラレタル結果ニシテ強力ノ材料ヲ用井施

工ノ方法ニ注意セシニ外ナラザルナリ之ヲ以テ之ヲ觀ル

モ強力ナル材料ヲ使用シ鄭重ナル工事ヲ施セハ或程度ニ

於ケル迄耐震的ナル煉瓦造家屋ヲ造リ得可キヤ明カナリ

トス

迫持 迫持ノ弱點ハ其中心ヨリ三十度以上ノ高所ニ在ルガ如シ又石材ト煉瓦トヲ混交シタル迫持（第一高等學校ノ如キ）若クハ劍石ヲ石材トシタル迫持（砲兵工廠ノ如キ）ハ異材交接ノ處ニ於テ罅裂スルノ虞アリ

迫持ノ形狀 ニ就テハ理論上半圓形ヲ最強トスレモ材料ノ撰擇施工ノ注意宜シキヲ得レバ他ノ種々ナル形狀ノ者ト雖モ頗ル耐震的ニ之ヲ造ルヲ得即小石川區砲兵工廠構内ニ於テ舊建物ノ半圓形迫持ハ往々裂損スルニモ拘ハラズ同處ニ於ケル新建築物壁上ニ楕圓及橢形迫持ハ却テ安全ナルガ如キハ其例證ナリトス

烟突 煉瓦ノ烟突ハ一般ニ危險多シ鐵製ノ者ハ耐震上之ニ優レリ

煉瓦ト木材トヲ連接スルノ害ハ煉瓦ト石材ヲ連結スルニ比シテ更ニ大ニ危險ナル者ナリ

#### 日本家

土藏 從來ノ方法ニテハ壁下地ト壁土トノ粘着力少ナク往々剝落ノ虞アリ改良ヲ要ス

屋根 屋根瓦ハ墜落ノ虞多シ要スルニ瓦裏ノ置土力弱クシテ瓦トノ摩擦力少ナキヲ以テ此弊アルナリ一般ニ置土ヲ爲シテ瓦ヲ葺クハ屋根ヲ重クスルノ弊アリ釘付針金止

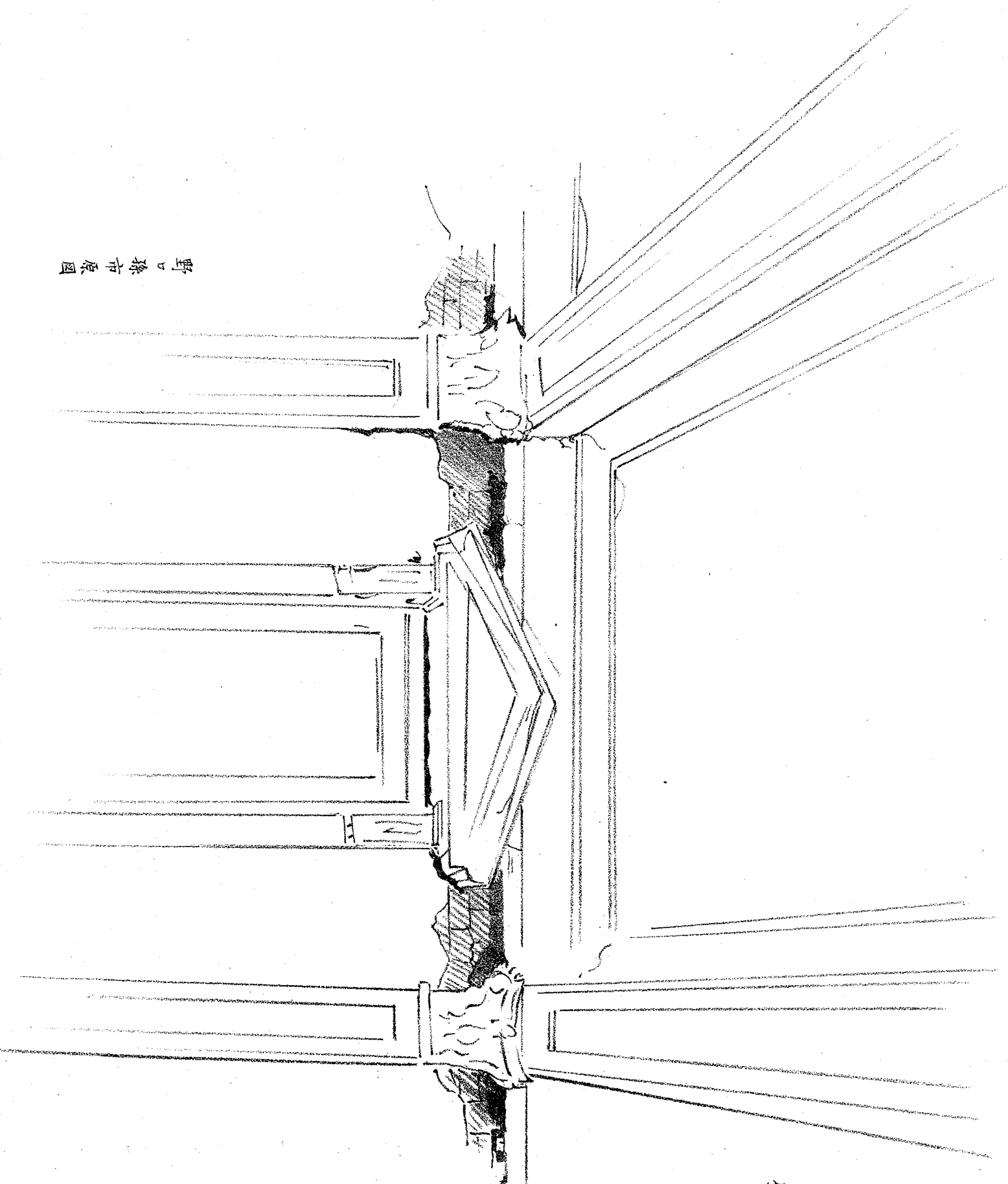
等ノ方法ヲ用ウルヲ佳トス

瓦筋堀 一般ニ震害ヲ被リ易シ殊ニ不完全ナル構造ノ物ニ於テ爾リ



博物館内水産陳列室

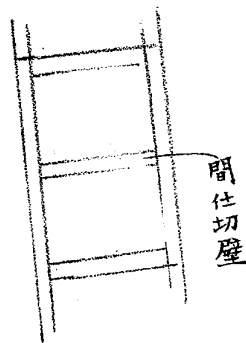
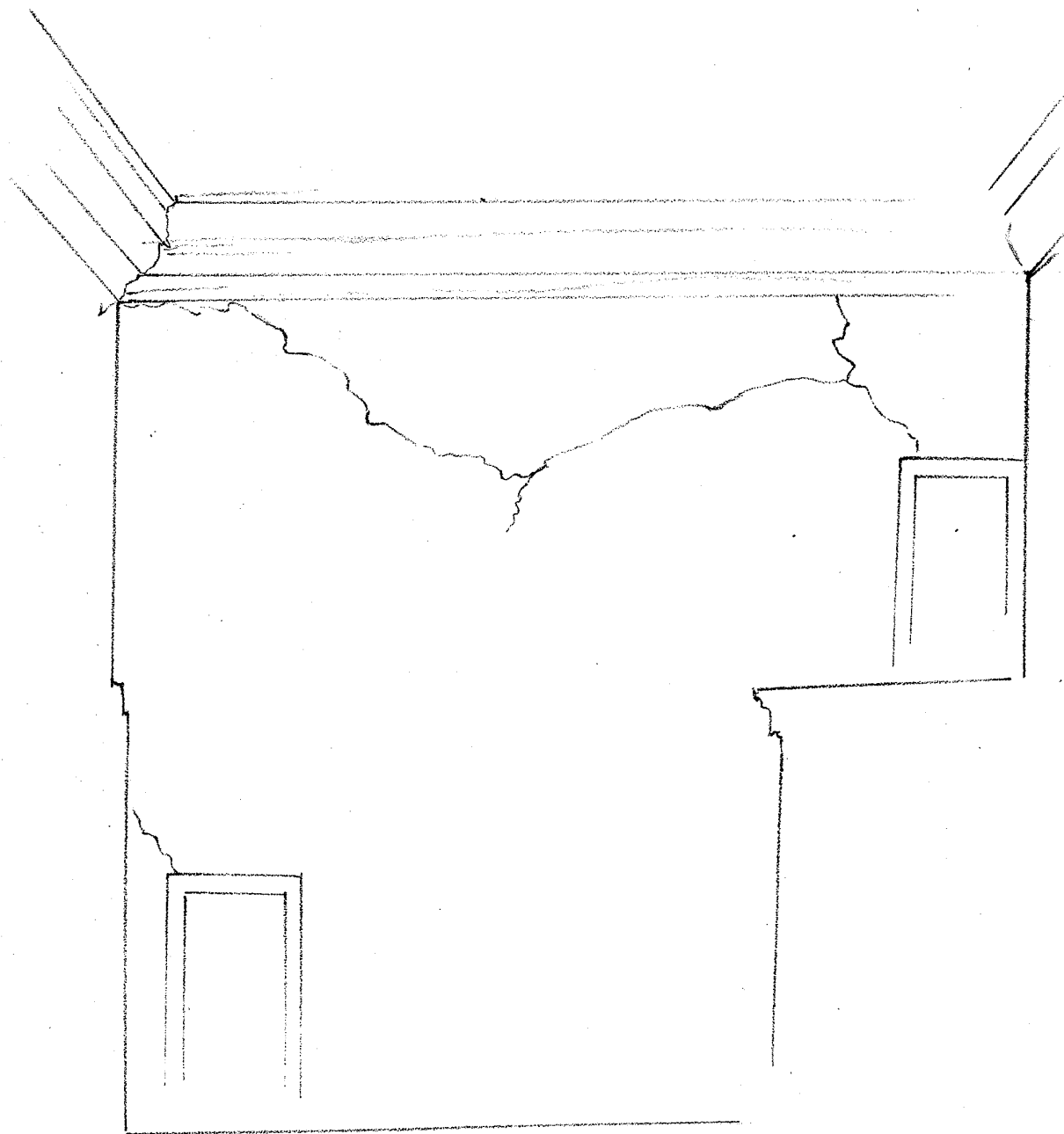
昨年、震災に既損所を生シタリシカ、今度ニテ二層大ナリ、煉瓦落下ニ總損所ヲ生シタリシカ、今度ニテ二層大ナリ、  
鑿ニ幾分外部ニ傾キタル如シ



野口孫市原圖

第十九圖  
博物館支司

多分去年、震災の結果ナルベシ  
然レ其破壊ノ状稀ニ見ル處ナリ



間仕切壁

野口孫中原因

明治廿八年一月十八日強震被害調査報告

大學院學生工學士 野口 孫市

(麴町區、芝區、日本橋區、京橋區)

今回被害調査ニ於テ尤モ困難ヲ感シタルハ舊破損ノ未タ修繕シ終ラサルモノ多ク其既ニ終ヘタルモノモ姑息ニ流レタルモノ多ク又今回ノ震動カ與フル如キ小破損ニ於テハ往々ニシテ放棄セラレタルニヨリ新舊ヲ區別スルニ難カリシコナリ  
縦覽ヲ求ムルニ方リ案内スル人ノ素人ナルト専門家ナルトニ關セス誤認ニヨリ或ハ故意ニヨリテ往々ニ事實ヲ隱蔽シ或ハ信スヘカラサルノ報ヲ與フルコアリ此場合ニ於テハ只其人物ノ性質ト破損ノ模様ニヨリ自カラ報告ニ斷言ヲ與フルノ止ムヲ得サル個所少ナカラス

今回ノ調査ニ於テ余ハ比較的小震ニ於テ建築物ノ如何ナル有様ニ於テ破損セシカヲ見ルヨリモ寧ロ如何ナル度ニ於テスルカニ於テ特ニ注意ヲ加ヘタリ

舊工部大學校ノ一棟ナル東市女學館ニ於テハ言テ左右ニ托シテ僅カニ受付室近傍ノ一二室ニ誘導シタルノミニシテ他ヲ示サス第十五國立銀行ニテハ營業中差支ヲ以テ觀覽ヲ謝絶セラレタリ

帝國博物館支局(元工部大學校)

客年ノ大震ニハ建築物全部ニ少ナカラサル破損ヲ受ケアルモノハ無數ノ罅裂ヲ生シ或ルモノハ軒蛇腹軒欄干ヲ墜落シアル

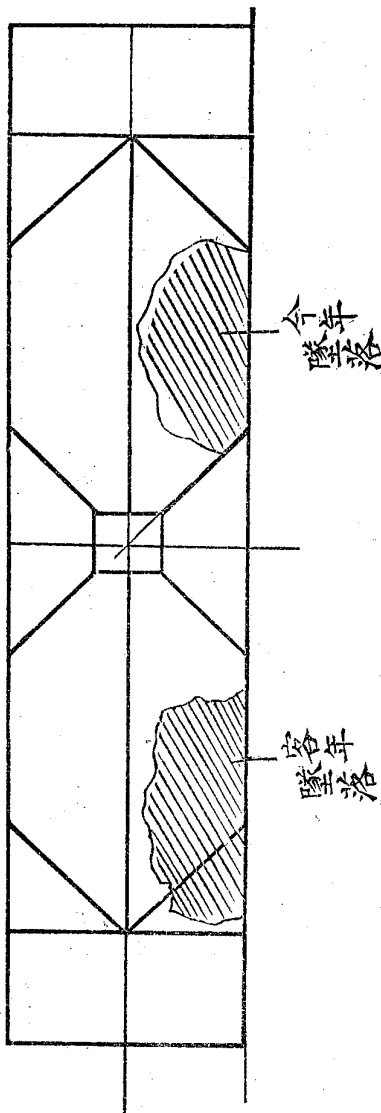
今回ノ強震ニ於テ新ニ數多ノ小罅裂ヲ生シタル如キ部分アリト雖モ舊キモノハ皆現存シテ未ダ修理ヲ加ヘラレス而シテ平素人ノ出入ナキ處ナルヲ以テ罅裂ノ煤塵ニ汚サル、ナク其新舊ヲ區別スル頗フル難シ又其幅大ノ如キモ館員ノ言ニヨレハ新ニ其大サヲ増加シタリト云ヘリ然レモ是亦確證ヲ認ムルト能ハス只室内ハ震災前十分ニ清掃セラレタリシニアリテ煉化片壁漆喰等ノ床上ニ墜落シタルハ今回強震ノ結果タルコト知ルニ足ルナリ

確カニ認メ得タル新破損ハ天井蛇腹ノ到ル處ニ壁際ヨリ離レ漆喰ノ粉末ハ泥土ト共ニ壁際ニ散布セラレタリ又天井蛇腹ノ墜落シ天井ニ罅裂ヲ生シタル個所頗フル多シ

水産陳列所(中央會室左右翼)西棟ノ西端ハ二階ヲ通シタル一大室ニシテ其西側ノ外壁ハ既ニ客年ノ大震ニ於テ大破ヲ被フリシモノ今回ノ強震ニ於テ一層其損害ヲ大ニシ煉瓦ノ破片數個ハ泥砂ト共ニ墜落シテ陳列品ヲ害シタリ而シテ此壁全躰トシテ又少シク外部ニ傾キタルカ如シ是等ノ損害アルニモ關ラズ此前面ニアル「アークード」ハ客年ノ大震ニ破壊ヲ免レ今回

モ亦少シノ異狀ナシ

時計塔下ノ一棟ハ屋根勾配ハ凡四十五度以上モアルヘク粉葺ノ上面ニ南蠻漆喰ヲ布ク貳寸許ニシテ上ニ通常ノ屋瓦ヲ並列シタルモノナリ客年大震ニ於テ屋瓦ノ一部ハ漆喰ト共ニ墜落



ヲ認メ難シ

時計塔ノ時計表硝子三枚ハ破レタリ是レ客年無事ニ保チタルモノナリ此損害ノ原因ハ時計ノ中心棒ガ震動ニヨリテ内部ヨリ衝突シタルニヨル皆中央ヨリ射光狀ノ破壊ヲナセリ

陳列館ノ軒蛇腹軒欄干ハ客年其大部分ヲ墜落シタリシガ其留存スルモノ今回更ニ異狀ナシ

東京府廳

案内セル技手ノ言ニヨレハ去年ノ大震後盡ク調査ヲ終ヘ寸毫ノ損害ヲ認メサリシガ十月卅日頃ノ小震ニ於テ罅裂ヲ諸所ニ生シタリ其後修理ヲ加ヘタルモノ今回ノ震災ニ於テ再ヒ破損ヲ來タセリト十月頃ノ地震ノ尤モ大ナルハ十月七日ノモノニシテ之ヲ六月

二十日ノモノニ比較セハ

最大水平動 最大上下動 最大加速度

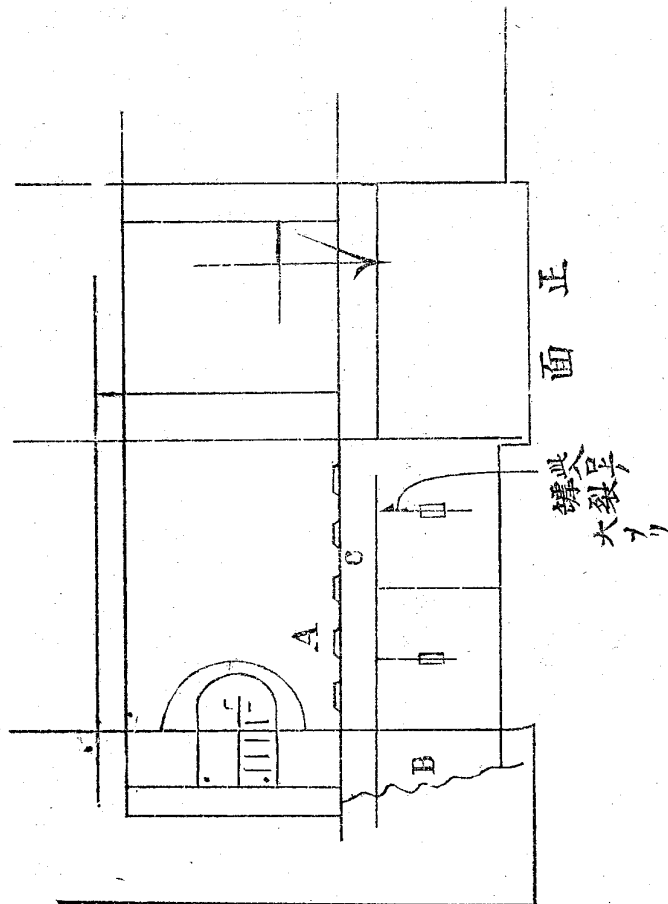
六月廿日ノ分 七三・ミリメートル 一〇・ミリメートル 四四四・ミリメートル

十月七日ノ分 二三・〃 極微 一一三・〃

シ今回又他ノ一部ヲ脱落セシメタリ是蓋シ粉板ト漆喰ノ接合力弱キト屋根勾配急ナルトニヨルナルヘシ然レモ客年ノ大震カ一部ヲ剝脱セシメタル筈ナレハ今回墜落シタル部分モ亦其節ヲ以テ多少ノ害ヲ受ケ未タ墜落スルニ至ラザリシモノナルヘク全ク今回強震ノミノ結果トシテ信スルヲ難シ此一棟ノ壁ハ客年ノ大震ニ於テモ格別損害ナカリシカ今回ハ殆ト其損害

ナリ余ハ六月ノ大震ニ能ク堪ヘタルノ建築ガ未タ數月ヲ出テスシテ恰モ其四分ノ一二近キ加速度ヲ有スル小震ノタメニ破

ラル、理アルヲ信セス又他ニ同様ノ例證アルヲモ聞カス而シテ夫ノ極微ノ罅裂ノ如キ咫尺ノ地ヨリ注視スルモノホ認ムルニ難キモノ少ナカラス焉ソ此弘大ナル建築ノ到ル處ノ壁面ニ於テ微毫ノ罅裂ダモナカリシヲ確定シ得ンヤ恐ラクハ之レ前ノ大震ニ於テ微細ノ罅裂ヲ生シタルモノ後ノ小震ニ遇フテ張大シタルニ過キササルモノナルヘシ



圖中Aノ部ニ於テハ其罅裂側石ヨリ軒ニ達セリ而シテ其他ノ損害モ主トシテ此近傍ニアリ聞ク初メ此工事ヲ起スニ方リ土

參照第三 東京地震被害建物調査報告

質ノ處ニ隨フテ差異アルヲ以テ東北ノ部ヲ除テ其他ヲ抗打地  
形トナシ其境界ハ恰モBノ邊ニアリト云損害ノ此部ニ著シキ  
ハ地盤ノ良否地形ノ差異亦與ツテカアリト云フヘシ  
階段ノ周圍ニ「アーケード」アリ些細ノ罅裂ダニナシCノ部天  
井蘆簀繼續ノ處ニ於テ破損セリ

海軍省

天井ハ處々ニ罅裂アリ最下階ニアル無數ノ橢圓形「アーチ」及  
ヒ階上諸所ノ圓形「アーチ」ハ其半數以上ニ於テ微細ノ罅裂  
ヲ見ル案内セル人ノ言ニヨレハ是等ハ全ク今回強震ノ結果  
ナリト然レモ是等幾多「アーチ」ノ損害ニ至テハ或ハ今回多  
少ノ増加アリタルヲアランモ是ヲ以テ盡ク今回ノ結果ニ歸  
スル能ハス蓋シ客年六月ノ頃ニハ未タ漆喰ヲ施コシアラサ  
リシニヨリテ現今認メ得ル如キ微細ノ罅裂ハ恐ラクハ既ニ  
存在シタリシモ認メ得ザリシモノナラン而シテ是等ノ「ア  
ーチ」ニシテ多量ノ重量ヲ荷フモノニ至テハ其損害アルモ  
ノ少ナキカ如シ

階段ノ間周圍ニハ「アーケード」アリ然レモ些少ノ罅裂ヲモ  
見出サス

暖房甲ノ烟突二階ノ陸屋根ヨリ突出スルヲ凡八尺此上ニ練鐵  
製烟突ヲ建ツ屋根ヨリ上ハ四隅ニ「アングル」ヲ入レ「ボール

ト」ニテ締メ付クタリ而シテ南北ノ面ニ於テ殆ト中央ノ部ニ  
垂直ノ罅裂アリ下階ニ達ス案内セル人ハ嘗テ此破損アルヲ  
知ラスト云ヘリ然レモ其罅裂ハ新シキモノトシテ信スル能ハ  
サリシカ其後聞ク處ニヨレハ果シテ客年六月ノ大震ニ於テ破  
損シタルモノニシテ夫ノ鐵製ノ「アングル」及ヒ「ボルト」ハ  
共ニ其破損後ニ於テ加ヘラレタルモノナリト云フ

丸ノ内三菱會社

少シノ破損ダニナシ

電燈會社麴町發電所

東北隅ノ軒廻リ碎クテ將ニ落チントセリ烟突別ニ異狀ナシ

愛宕館

煉瓦造八角形ノ五層樓ニシテ愛宕岡ニアリ客年  
ノ大震ニ於テ罅裂全塔ニ普及セラレ今回ノ強震  
ニ於テ一層ノ危險ヲ増加シタリ前ノ大破未タ修  
理シアラサルニヨリテ罅裂ノ新舊ハ殆ト區別ス  
ルニ難シ只第五層ノ積出シ柱(ピラスト)ハ今  
回其東側ノモノ貳本ハ頭尾ヲ留メテ崩落シ其他  
モ亦將ニ崩壞セントセリ余カ塔ヲ降テ將ニ外部  
ヨリ寫シ取ラントスルノ際恰モ小震ニ遇フ圖中  
點線ニ沿フテ上下運動ヲ異ニシ乞々將ニ破壞セ

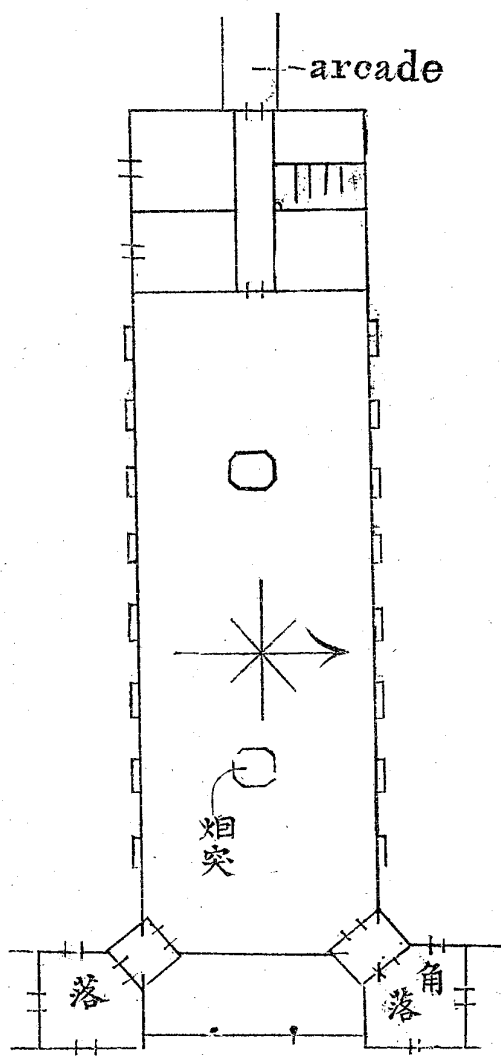
ントシタリ土臺周圍ノ側石ハ澤田石ヲ以テ積上ケタリ客年ノ  
大震ニ罅裂ヲ生シタリシカ今回モ亦其一部ニ破損ヲ生セリ

慈惠病院

病室ハ二階造ニシテ大凡五間ニ二十間ノ大室ナリ中央ニハ八  
角形ノ烟突二ヶ所アリ角隅ノ塔ハ客年ノ震災ヲ受クル大ナル  
ヲ以テ一部分ノ積換ヲナセル箇所二三アリ

窓ハ楕形「アーチ」ニシテ罅裂ヲ生シタル箇所頗フル多ク天井  
モ罅裂ヲ生シ又壁際ニ漆喰ノ粉末ヲ散布セリ

病室ハ同様ノモノ二棟アリテ中央ヲ平家ノ「アーケード」ニテ  
繋ク其「アーチ」ノ破損セル部分アリ東ノ一棟ハ西ノ一棟ニ比  
シテ損害多ク中央ノ烟突二本共二階ノ天井際ニ於テ折斷セラ



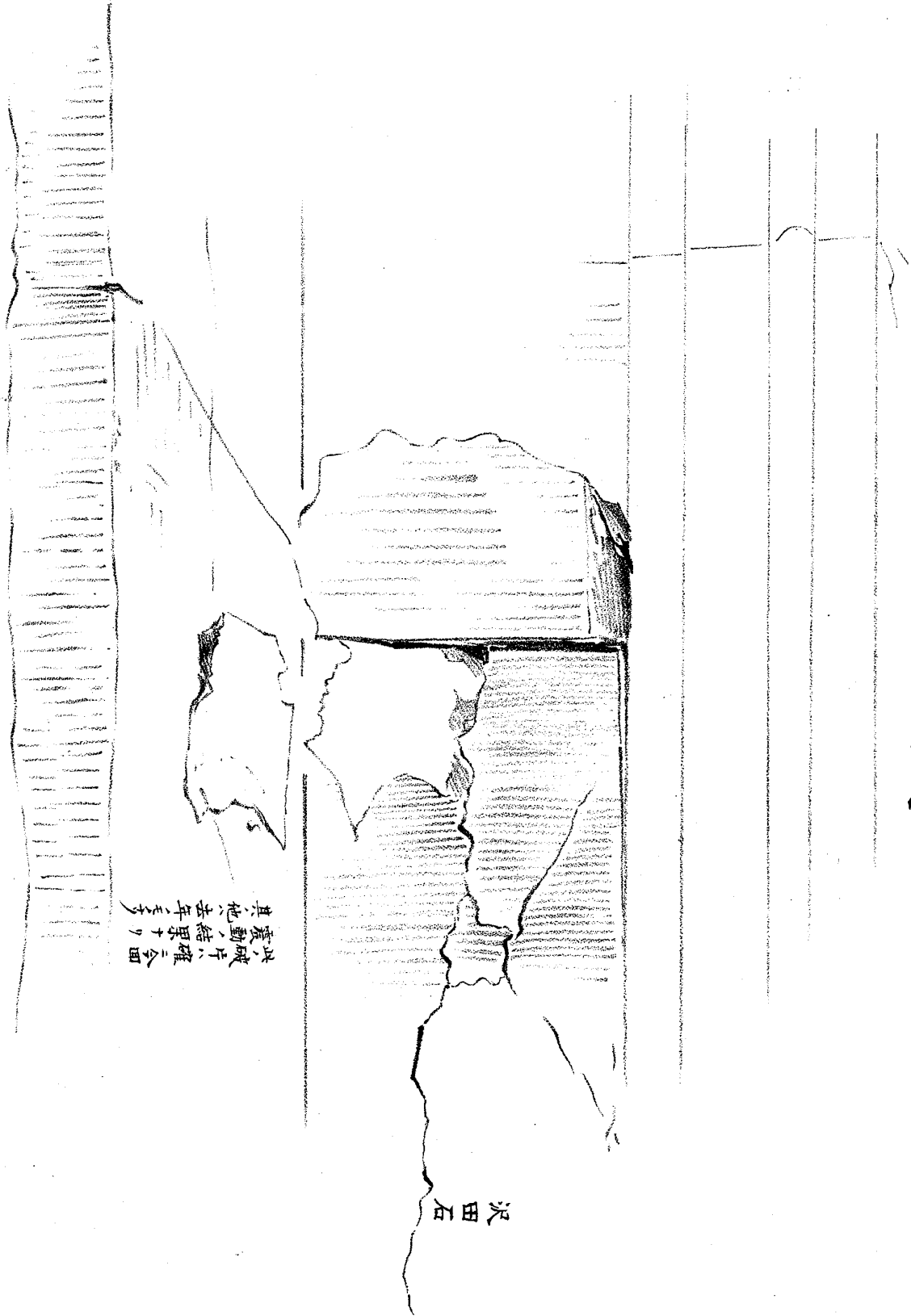
炎  
宮  
館

此図スケッチ中ニ地震アリ時ニ午後二時ニテ  
震動、時最上階ガクリク、左右ニ動ケリ

此点線ニ沿フテ左右ニ動ケリ



圖一廿 築石側周周台土館宿愛



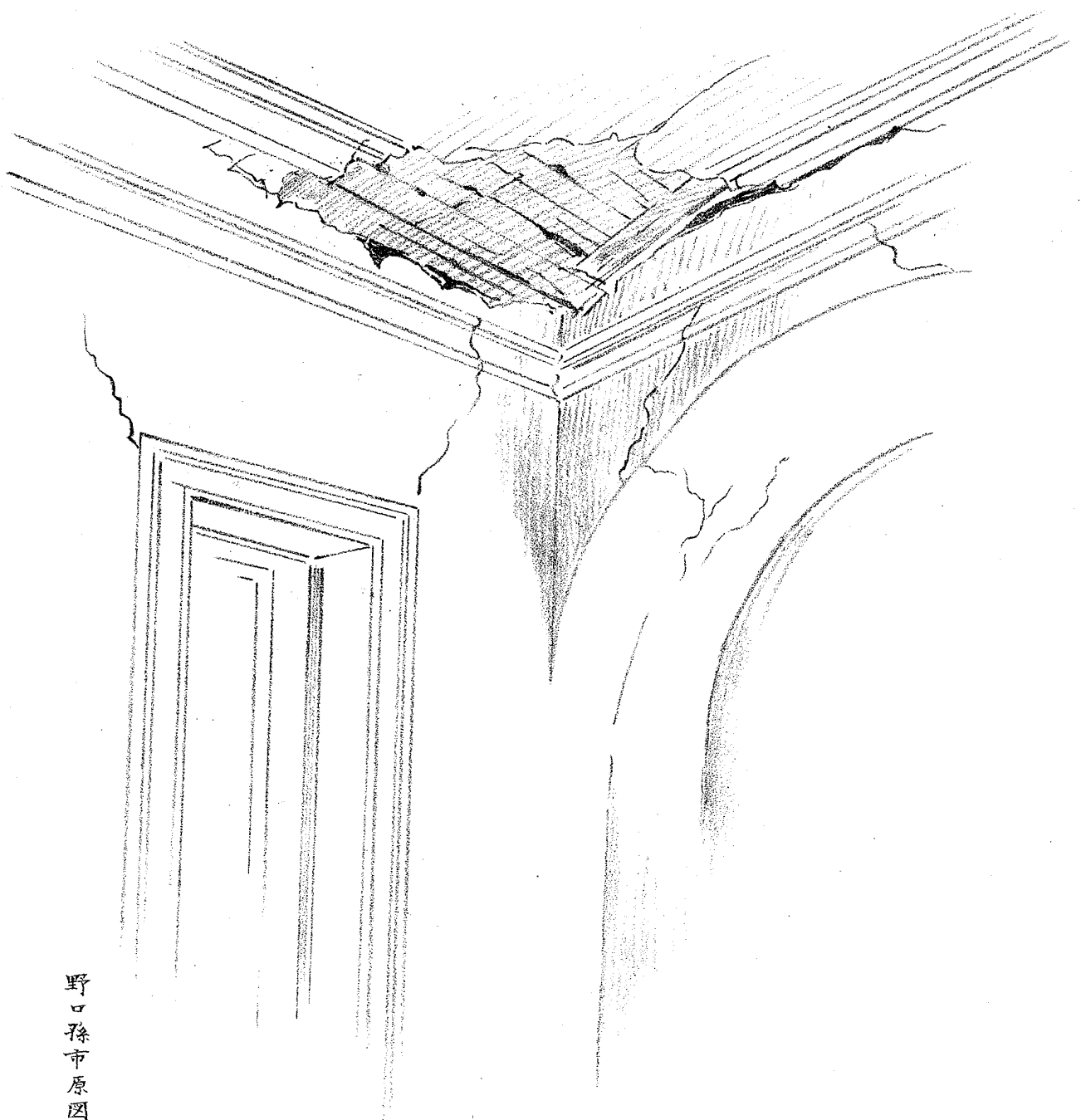
沢田石

此城片  
震動之結果ナリ  
其他之基年ニ至リ

野ノ孫市原圖



圖 二 廿 第  
層 三 第 館 宥 愛

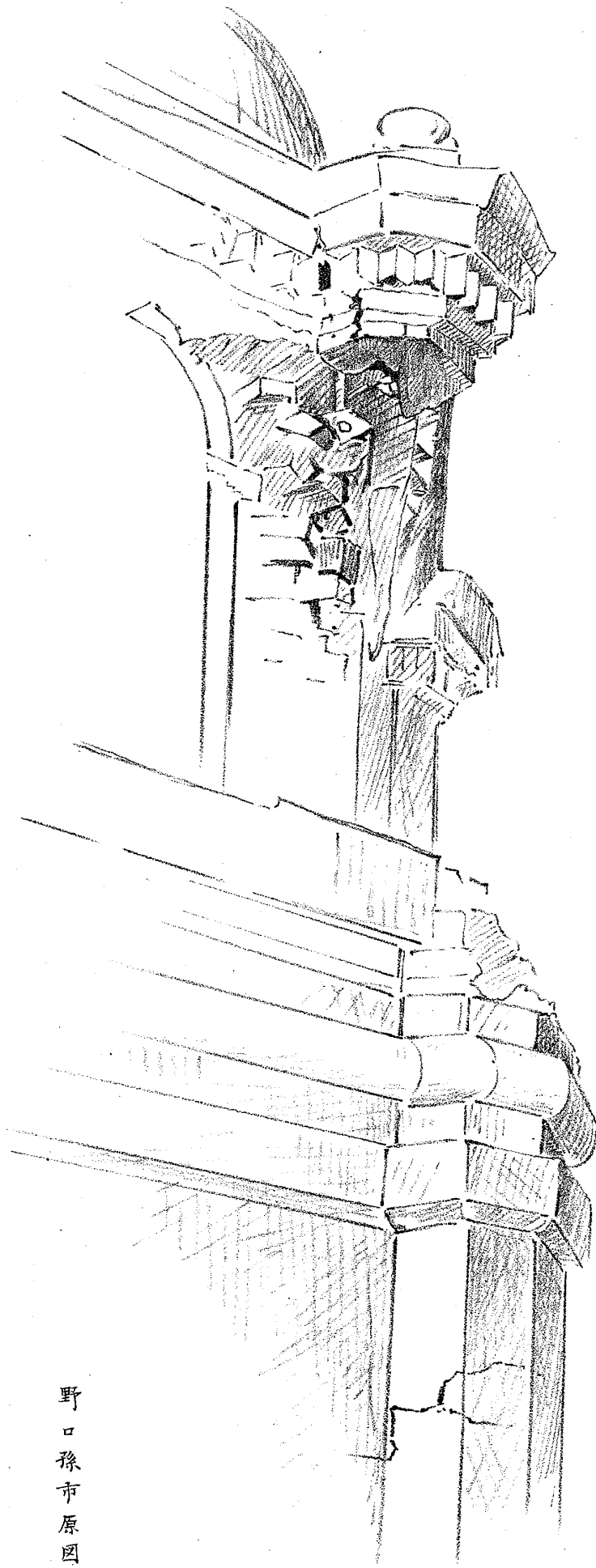


野口孫市原図

第廿三圖

愛宕館第五層

ピラスター崩落ノ部

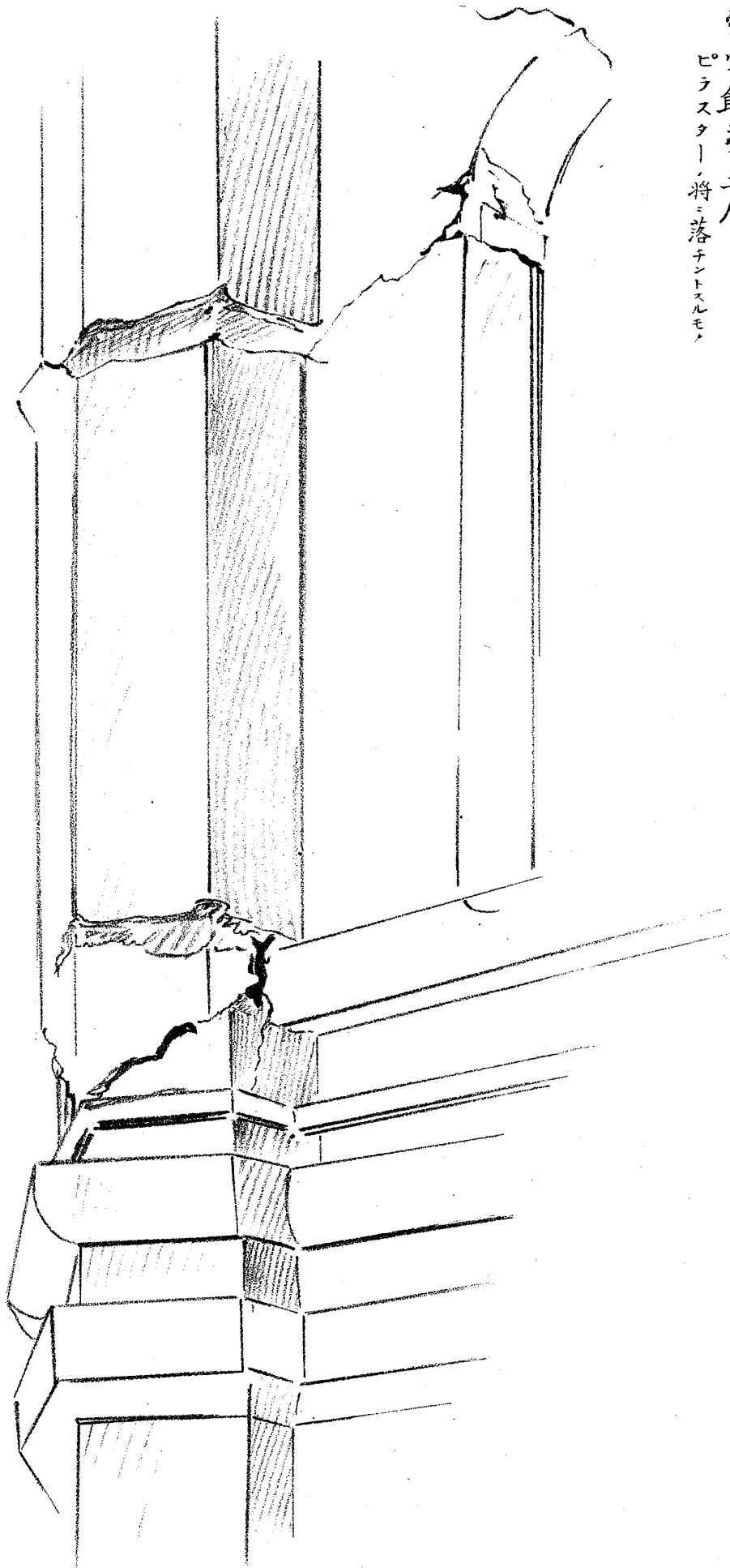


野口孫市原図

第廿四圖

愛宕館茅五層

ピラストター、將ニ落チントスルモト



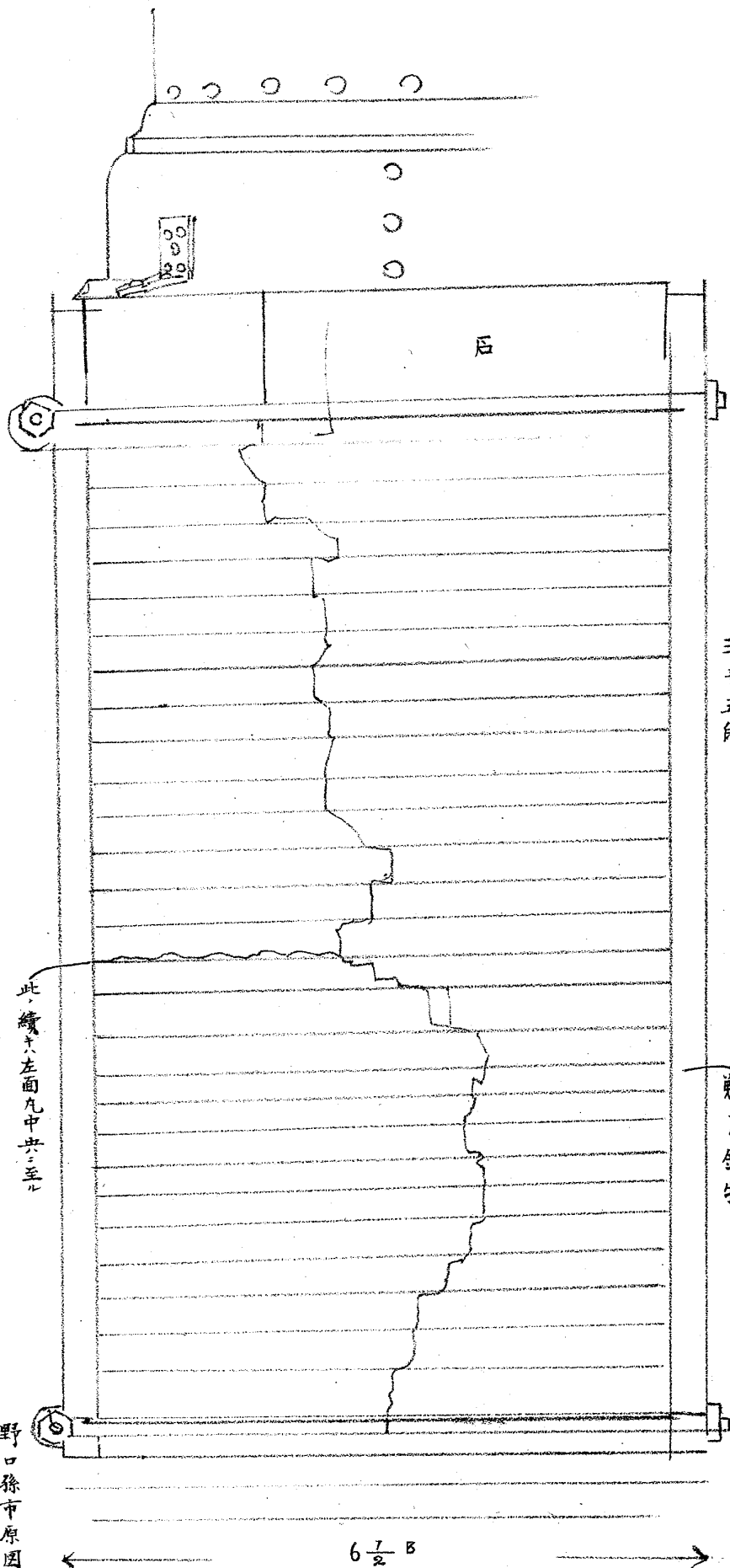
野口孫市原圖

# 第二十五圖 海軍省

背面ニモ同様割レアリ左右面ニハナシ  
昨年ノモノニ割レタルナラシ此レハ古シ

此割レハ下階ニ達ス下階ニ角鉄ナシ  
三十五段

剃刀鉄物

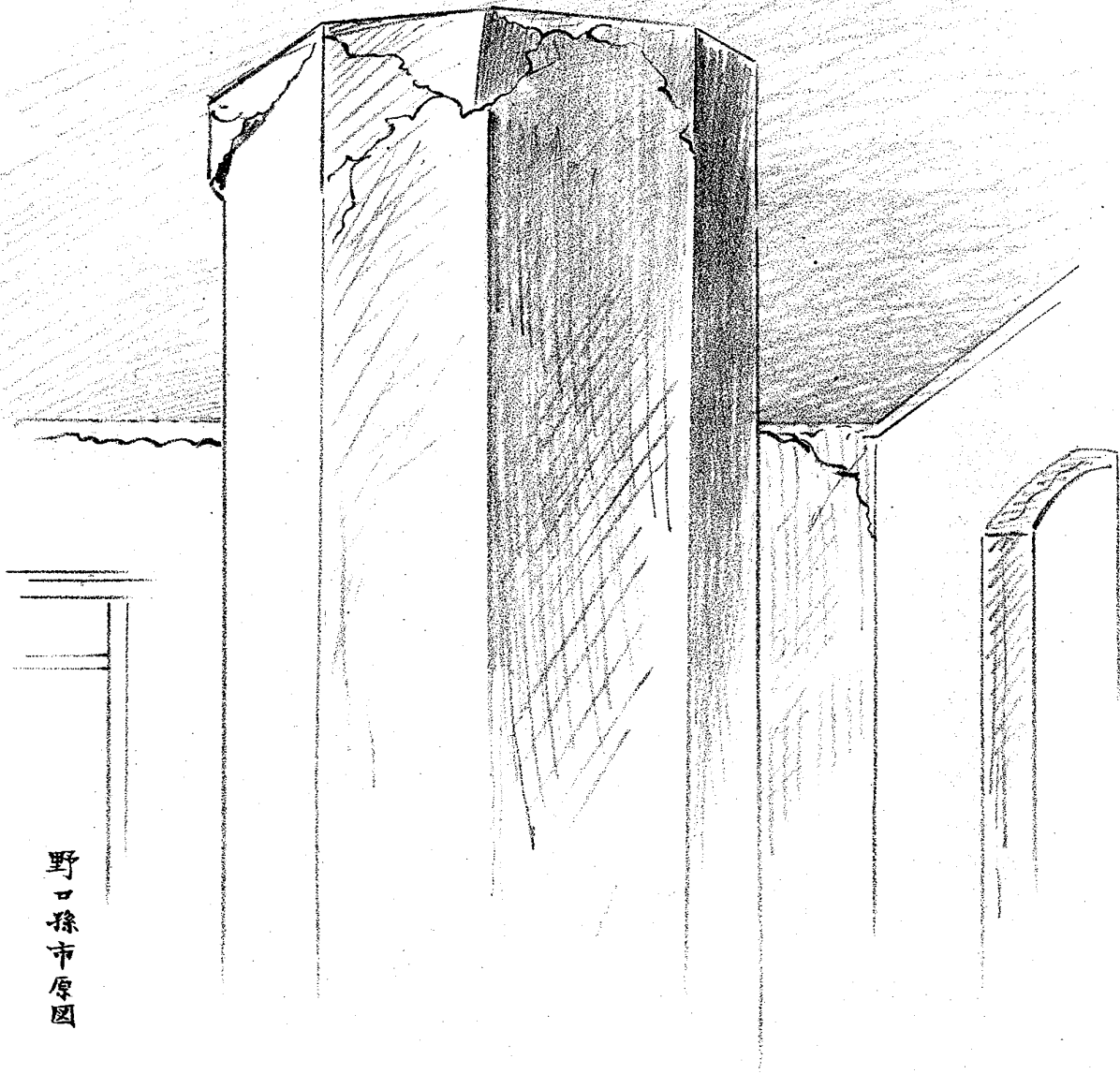


此ノ續キ左面凡中興ニ至ル

野口孫市原因

$6\frac{1}{2}$  B

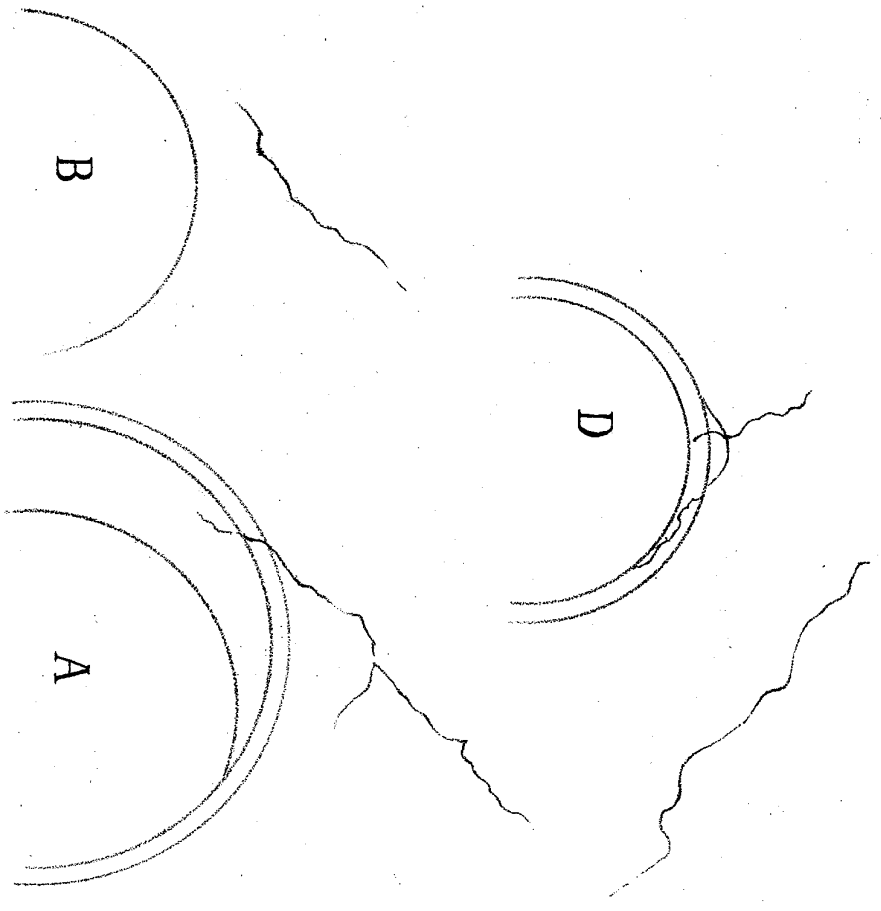
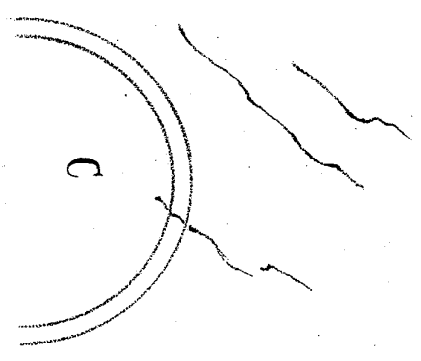
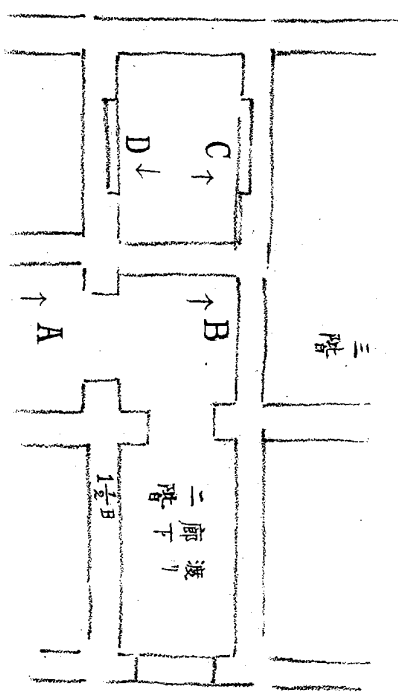
第廿六圖  
慈惠院南棟二階煙突



野口孫市原圖

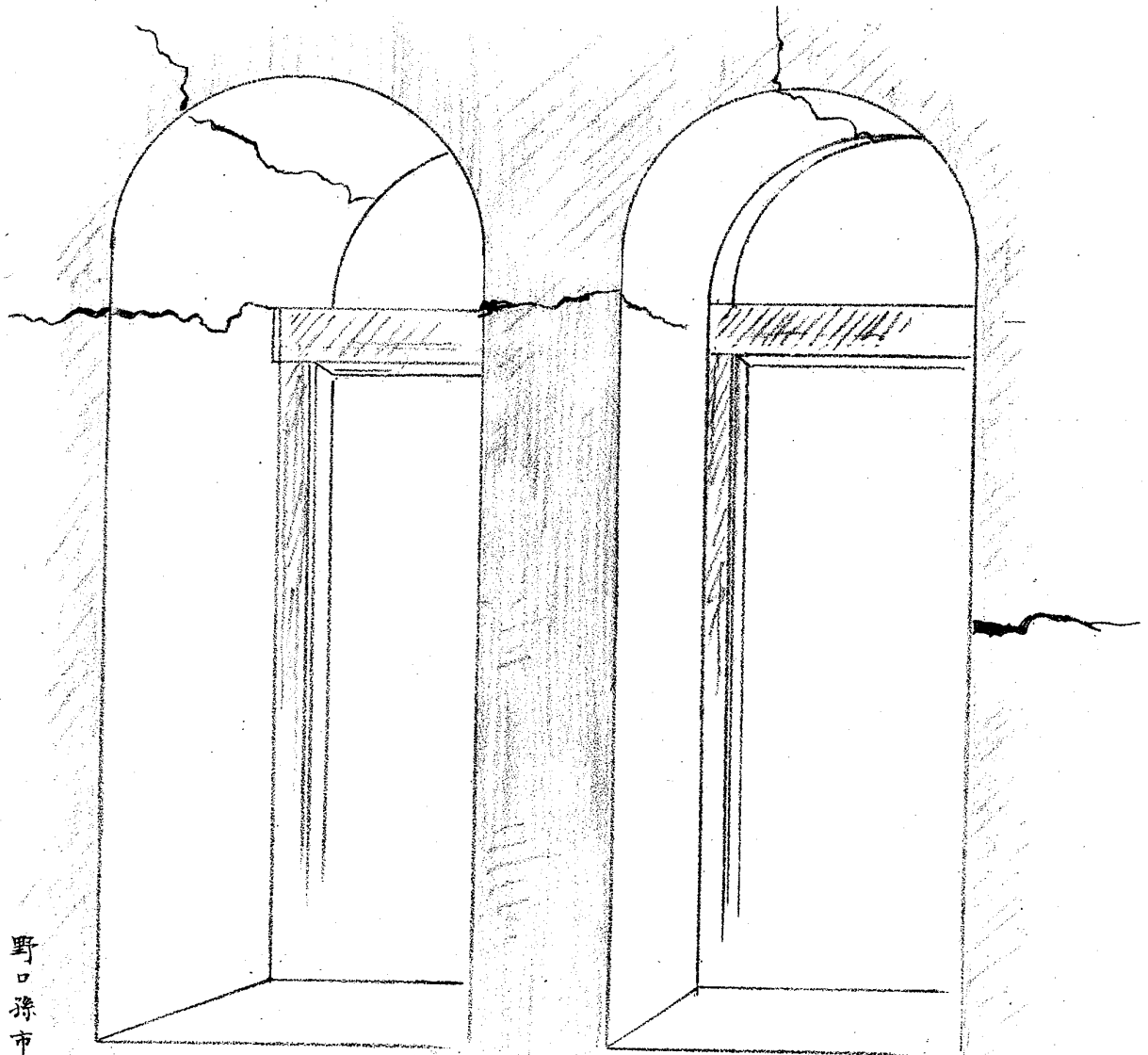
農商務省應接所

新ク受ケル電裂



野口森市原図

圖 八 廿 第  
階 三 茅 塔 木 江

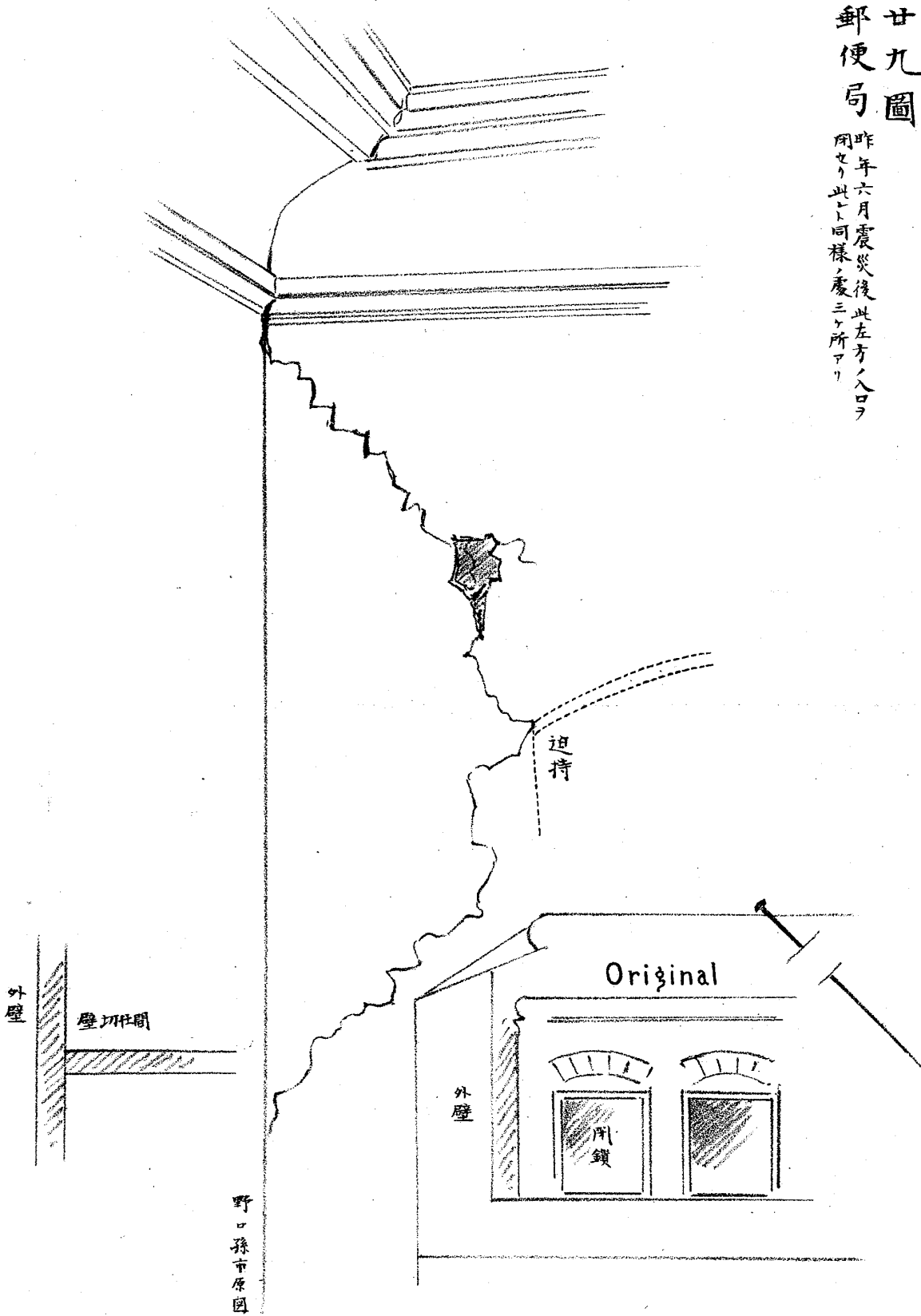


野口孫市原圖

第廿九圖

郵便局

昨年六月震災後此左方ノ入口ヲ  
閉セリ此ト同様ノ處ニヶ所アリ





レタリ然レモ未タ墜落スルニ至ラス

### 遞信省

舊破損ハ主モニ天井蛇腹下等ニアリテ未タ修理シアラス確カニ今回ノ破損ト認ムベキモノハ入口ノ上隅一二ヶ所ノ罅裂ニ過キス

### 農商務省

客年少シク損害アリ其後全ク修繕ヲ加ヘラレタリ壁ノ入隅等ニ於テ受ケタル客年ノ損害ハ今度同處ニ於テ再ヒ形ハレタルモノアリ然レモ此修理タル只表面姑息ノ策ニ出テタルモノナレハ此損害ハ直チニ今回ノ地震ノ害トシテ認ムル能ハス又陸迫持楔石ノ部ニ於テ微細ノ罅裂ヲ見ルモノ頗ル多シ然レモ是亦新ニ形ハレタル損害ニアラザルベシ省員ノ語ル所ニヨリ確カニ今回震動ノ結果ト稱スルモノハ正面應接室邊ニ於ケル罅裂ニシテ頗ル普通ノモノト異ナルノ感アリ然レモ是レ疑ヲ容ルヘキニアラス即ハチ寫圖ニ於ケル如ク二階建廊下ハ三階建二棟ヲ連結シタルモノニシテ普通ノ狀況ナランニハ「アーチ」が受クル處ノ破損ハ大抵「アーチ」中心ニ向フテ罅裂ヲ生スルモノナレモ此廊下ハ震動ノ結果トシテ三階館ヲ壓迫シ遂ニ此罅裂ヲ生シタリ故ニ其方向及破損ノ狀況等ハ皆一樣ナリ

### 江木塔

此塔ハ客年ノ大震ニ於テモ豫期シタル如キ大破ヲ生セザリシガ其尤モ多キハ第三層ニシテ二階屋ト接合ノ部ニアリ罅裂ハ主モニ水平ニシテ窓ヲ横キツテ通セリ客年震災ノ後警視廳ノ命ニヨリテ内部ニ木製ノ組杵ヲ附着シ以テ其安全ヲ保タントセリ然レモ舊破損ハ依然トシテ修理ヲ加ヘラレス今回ノ強震ニ於テ少シク壁面ノ剝脫罅裂等アリト云ヘリ然レモ新舊相混シテ之ヲ區別スル能ハサリシ

### 居留地烟突

築地居留地ニ於ケル或ル硝子製造所ノ烟突煉瓦造ハ角形ノモノ其一面及之ニ反對セル面ニ於テ殆ト全長ニ達シタル垂直ノ罅裂アリ夫ノ海軍省ノ烟突破損ト殆ト同様ノ觀アリ今回ノ強震ノ結果ニアラサルコトハ罅裂ノ舊ルキト場主ノ記臆トニヨリテ證セラレタリ然レモ其原因ヲ詳ニセス余未タ地震ノ爲メニ烟突カ縦ニ二分セラレタルノ例アルヲ見ス或ハ海軍省ノ烟突ト共ニ他ニ原因ノアルナランカ

### 江戸橋郵便局

客年大震ニヨリテ許多ノ損害ヲ受ケ其後修理ニ着手シテ昨今猶完結セサルモノナリ而シテ今回ノ破損ノ尤モ大ナルモノハ三階電信技術室ニシテ寫圖ニ於ケル如キ破損ヲ生セリ蓋シ此

間仕切ニハモト二箇ノ同様ナル入口ヲ穿チタリシカ今回ノ修繕ニ於テ外壁ニ近キ部ヲ埋メテ壁面積ヲ増加セリ而シテ其舊壁トノ接合點ハ一段毎ニ煉瓦ヲ欠キ取り新煉瓦ヲ以テ之ヲ埋メタリ然ルニ今回生シタル破損ハ入口ノ角隅ニ起リテ恰モ入口ノ開放セラレタル時ニ起ルモノ、如シ是レ客年受ケタル罅裂ノ存在シタルモノ今回ノ震動ニ遇フテ張大シタルモノナルヤ明カナリ此家屋ノ損害ハ主モニ三階ノ東側ニアリテ相類似シタル破損三ヶ所アリ

三菱會社江戸橋倉庫

連續シタル切妻ハ皆無事ニシテ最東ノ一棟カ東側ノ石造軒蛇腹凡十間許墜落シタリ其他ニハ損害ヲ見ス

柳原河岸煉瓦長屋

今回別ニ異狀ナシ

日本家屋

土藏ノ壁落チタルモノ處々ニアリ其他新ニ罅裂ヲ生シタルモノ頗フル多シ

結尾

余カ今回ノ調査ニ於テ認メ得タル事實ノ主ナルモノハ破損ノ主モナルモノハ舊罅裂ノ張大、姑息ノ修繕ヲナシタル部分ノ破損、モト大破ヲ受ケタル部分ノ崩潰等ニシテ舊破ニ

關係ナキモノハ天井ノ罅裂小數烟突ノ破損「アーチ」及「リンテル」角隅ニ於ケル小數ノ罅裂等ノ外頗フル寥々タルモノ、如シ

損害ハ家屋ノ東側ニ多キヲ

「アーチード」ハ概シテ損害少ナキカ如シ

今回強震ノ加速度ハ凡二百四十九ミリメートルニシテ昨年六月ノモノニ比シテ殆ト貳分ノ一ナリ（昨年ノモノハ大學地震學教室ノ測定ニヨリ今度ノ分ハ中央氣象臺ノモノニヨル然レモ兩所ノ震動ニ就テ後者ハ常ニ前者ヨリモ稍多クノ震動ヲ與フル如シ故ニ客年ノ四百四十四ニ對シテ半數ト概算シテ太差ナカルベシ）然レモ其家屋ニ與ヘタル損害ハ遠ク貳分ノ壹ニ及バザル如シ

明治廿八年一月十九日東京震災被害家屋調査報告

山崎 定信

神田深川本所淺草

一月十九日東京市ニ於テ昨年六月ニ亞ク強震アリ今被害家屋ヲ調査スルニ昨年六月震害ヲ受ケタルモノニシテ未ダ些少ノ修繕ヲナサザルモノノ如キハ殆ント前後被害ノ區別ヲ成ス能ハス或ハ先ニ受タル龜裂ノ稍増大延長シタル如キアリ或ハ一時假修繕ヲ成シタル局部ニ於テ更ニ小龜裂ヲ生シタル如キアリ如此ハ先年既ニ其建築物ヲシテ脆弱ナラシメタルモノナレハ今度多少ノ震害ヲ受クルハ勿論ナリトス要スルニ今度ノ震動ニ依リテ新ニ龜裂等ノ被害ヲ生シタルモノハ殆ント皆無トモ稱スルヲ得ベク何レモ昨年被害ノ箇處ヲシテ幾分力増大ナラシメタルニ過キザルモノト思考ス今調査シタル家屋ヲ列舉スレハ左ノ如シ

最初神田警察署ニ至リ區内被害家屋ノ有無及其程度ノ如何ヲ尋問シタルニ警部某ノ答フル處ニ依レハ何レモ龜裂細少ニシテ被害ノ著シキモノナク神保町ニ於テ煉瓦塀破損シ爲メニ女一人即死シタルノ外皆無トモ云フ可シ云々  
第壹 神田警察署煉瓦造平家建 龜裂及破損ナシ  
第貳 東明館正面階上ニ龜裂アリ昨年生シタル龜裂ヲ目塗シ

タルモノ今度又全處ニ於テ龜裂ヲ生シタルナリ

第參 神保町書肆六合館正面ハ普通店藏造リ兩側及後面ノ三方ハ煉瓦壁ナリ其左側ノ煉化壁ハ切妻ヨリ地上ニ至ル迄縱龜裂ヲ生シタルヲ認ム

第四 神保町裏通りニアル煉瓦塀女一人即死シタル箇處ト云フヲ驗スルニ塀ハ煉瓦半枚厚高七尺甚脆弱ナル石灰モルタルヲ以テ積ミ長サ五間餘悉ク轉倒セリ

第五 駿河臺小松宮御邸ハ昨六月大破損ヲ受ケタル儘ニシテ少シノ修繕ダモ施サ、リシモノナリ今案内者ノ言ニ依ルニ今度損害ヲ受ケタルハ正面玄關上ノ切妻ノミナリト蓋シ昨年大龜裂ヲ生シ墜落スルニ至ラザリシモノ今度遂ニ轉倒シタルモノナラント思考ス

第六 駿河臺秋元邸ハ木造漆喰塗洋風建築ナリ主人伯ノ談話ニヨレハ昨年ハ少シノ龜裂モ壁面ニ顯ハレザリシト云フ今度龜裂ヲ生シタルハ煉瓦製ノ煙突ト室内大壁ト相接シタルニケ處ノ外階上和風座敷床ノ側壁ニ龜裂ヲ生シタルノミ

第七 駿河臺戸田伯邸ハ煉瓦造漆喰塗ナリ玄關ノ階上及土中暖房室ヨリノ大煙突ニ龜裂ヲ認ムルモ家扶ノ言ニ依レハ昨夏受ケタルモノニシテ今度生シタルニ非ト云フ或ハ然ランカ其他ニ龜裂ナシ

第八 駿河臺山龍堂病院煉瓦造ノ部分ハ更ニ被害ナシト云フ  
木造病室廊下ノ硝子障子ニ枚龜裂ヲ生セリ

第九 駿河臺ニコライ教會堂ハ無難被害ナシト稱シ實見スル  
ヲ得サリシ

第十 神田錦町錦輝館ハ木造三階建三階大廣間周壁殆ソド墜  
落セルノ外他ニ異狀ナシ

第十一 神田區役所煉瓦造二階建被害ナシト云フ實見スルニ  
階下ニハ些少ノ龜裂ナシ階上外壁ノ四隅ハ何レモ多少ノ龜

裂アルヲ認ム又構内ニアル便所ハ軒ヨリ地上ニ達スル縱龜  
裂アリ窓迫持ノ中心ニアルモノ少シク墜下シタルヲ認ム

第十二 深川警察署木造洋風被害ナシ

第十三 深川新盛座木造被害ナシ周圍煉瓦塀ニ細小ノ龜裂ア  
リ

第十四 深川電燈會社ハ昨年被害ノ儘ニテ修繕ヲナサス今度  
ノ震災ニハ被害ナシト云フ

第十五 深川區役所ハ煉瓦造二階建龜裂ナシ

第十六 東京紡績會社ハ瀛罐室ニ今度生シタル龜裂アルモ甚  
シカラス後部ノ煉化塀轉倒セリ神田區内ノモノト全様半枚  
厚高サ七尺餘ノモノニシテ延長二十間餘破壊セリ

第十七 岩崎邸ハ無難被害ナシト云フ

第十八 上野公園地内博物館ハ多少龜裂アリ正面階上手摺石  
ノ如キハ墜落セサルモ接手悉ク弛緩シ手ヲ以テ動搖サスル  
ヲ得大階段上ノ迫持石左右一箇宛二分程墜下スルヲ見ル其  
他周壁處々龜裂ヲ生シ東北隅ノ屋根瓦ハ墜落セリ附屬書籍  
庫煉瓦造漆喰塗二階建入口迫持上ニ大梁ヲ架シアリ入口迫  
持ハ大破損ヲ受ク階下天井低キ爲メ大梁ハ將ニ墜落セント  
ス危險云フ可カラズ

第十九 本所警察署ハ昨年多數ノ龜裂ヲ生シタルモ修繕ヲナ  
サス打過キ今度ノ震災ニ際シ先ノ龜裂増大シテ危險ノ狀ヲ  
顯ハセリ而シテ被害ノ甚シキハ各窓ノ上下左右及四隅ノ縱  
龜裂ナリ後部ニアル擊劔道場ノ如キハ更ニ龜裂ヲ見ス勿論  
之ハ平家造ナリ

第二十 本所横網町安田邸ハ無難被害ナシト云フ

第二十一 淺草工業學校瀛罐室外部切妻ノ外方ニ墜落シタル  
ノ外他ニ破損被害ナシ

第二十二 鐘淵紡績會社ハ多少ノ龜裂アリ何レモ昨年生シタ  
ルモノ、幾分力増大シタルニ止ル

第二十三 淺草公園江崎寫真店ハ無難被害ナシト云フ

第二十四 淺草郵便局ハ階上ニ細少ノ龜裂ニケ處アルノミニ  
シテ他ニ異狀ナシ

第二十五 下谷警察署ハ階上ニ多少ノ龜裂アリ何レモ先年生シタルモノ、増大シ又ハ全處ヨリ生シタルモノニ過キス

第二十六 淺草公園地内凌雲閣ハ先年被害以來修繕ヲ成シ其方法當ヲ得タルニ依ルカ震動ノ微ナルニ依ルカ格別ノ被害ナシ只三階ノ西五階ノ東南六階ノ西及東南七階ノ西ニアル窓迫持及窓臺ニ龜裂ヲ見ルノミ蓋シ昨年生シタル箇處ニ於テ今度又生シタルモノナリ

以上